

プラチナ四半期レポート

2026年第1四半期

2026年5月18日

はじめに

今回の『プラチナ四半期レポート』の内容は、2026年第1四半期の需給動向と2026年の最新予測となる。プラチナ投資家に役立つ情報、注目すべきトレンドとそれに対する我々WPICの見解、さらに我々のプロダクトパートナー各社の最新情報も取り上げた。本稿5ページからのデータおよび分析はメタルズフォーカスが WPIC のために独自に作成したものである。

プラチナ市場は2026年も4年連続の供給不足の予測だが、第1四半期に関していえば当初はメタル価格高騰の反動で、その後はイラン戦争に伴うインフレと金利上昇予測が高まったことで投資需要が減り市場は供給過剰になった。

6 四半期ぶりの供給過剰

- 2026年第1四半期のプラチナ総供給は前年同期比で18%増えて54.0トンとなった。2025年のような洪水被害がなかったため鉱山生産が前年同期比で22%増えた。リサイクル供給もメタル価格が上がったおかげで、前年同期比で7%増えた。
- 2026年第1四半期のプラチナ総需要は、投資需要が7.0トンの純減で45.7トンになった。工業需要の回復は自動車と宝飾品需要の減少で相殺された。
- これらの結果、2026年第1四半期のプラチナ市場は、20.5トンが不足した2025年第4四半期から一転、8.3トンの供給過剰となった。

2026年全体のプラチナ市場は供給不足のまま

- 第1四半期のトレンドのうちのいくつかは今年残りの間に反転するだろう。通年のプラチナ供給は前年比で2%増加、リサイクル供給はメタル価格の上昇でこれまで処理されていなかった廃触媒が加工され、宝飾品スクラップも増えて前年比で9%増えるだろう。鉱山供給は安定して推移する予測。
- プラチナ需要は前年比で9%減って238.7トンになるだろう。工業需要は9%伸びるが、宝飾品がマイナス12%、投資需要がマイナス54%、自動車需要が2%減り相殺される。
- 従って2026年を通じたプラチナ市場は9.2トンの供給不足となり、地上在庫で需要をカバーできるのは3ヶ月未満となる。

2014年～2026年（予測）の年間のプラチナ需給バランス(koz)



出典：2014年から2018年はSFA（オックスフォード）、2019年から2026年予測はメタルズフォーカス

プラチナ投資 – 現物の供給逼迫が表面化

2026年2月28日に米国とイスラエルがイランに対する最初の攻撃を開始して以来、その影響が世界情勢を支配する。直接的な衝突はある程度緩和されたが、ホルムズ海峡の通航有無がより広範な紛争に巻き込まれ、石油やガスの供給がペルシャ湾で滞って世界的なエネルギー危機を引き起こしている。

ブレント原油価格は2月28日以来 55% 上がったが、プラチナとゴールドの価格はそれぞれ 16%と 13% 下がり、イラン戦争突発直後は流動性を求める投資家が貴金属を売り、ドルは2025年に失った地盤をいくらか回復した。しかし、貴金属にとってのより大きな逆風は投資家が貴金属保有に魅力を感じなくなることだろう。紛争の長期化でエネルギー価格が上昇し、インフレリスクが生じて金利の上昇予測が強まったため、金利を生まない貴金属が不利になった。これがプラチナ ETF の売却と取引所在庫の一部流出につながり、2026年第1四半期のプラチナ市場は 8.3トンの供給過剰になったのだ。しかし、このインフレリスクは経済成長が牽引するものではなく外部要因によるものであり、イラン戦争と金利に関連した「ドル買い・貴金属売り」は時間と共に反転する可能性がある。高い金利環境は、米国にとって増え続ける国家債務の重圧がかかる財政にとっては問題となるからだ。投資需要以外では、イラン戦争によってこれまで予定されていた石油工場や化学工場の定期メンテナンスが延期されるなどしたため、プラチナ需要予測を下方修正した。

イラン戦争をめぐる不確実性は予測リスクを高め、ホルムス海峡の通航制限が続けば、プラチナ需要はさらに減る可能性もある。中東は直接的にはプラチナの大きな市場ではないが、経済成長の鈍化や、半導体生産が中東からのヘリウム輸出に依存しているという間接的な要因がプラチナ需要に影響するだろう。ただ重要な点は、このような中でもプラチナ価格は概ね 2000ドル/オンスで下値が支えられていることだ。今年1月の史上最高値からは下がっているが、年初からは横ばいで前年同期比のほぼ2倍の水準を維持している。

1年間でプラチナ価格がほぼ2倍になったことを念頭にしたプラチナの大きなテーマとしては、供給は価格の上昇に対して明確には反応しない一方で、需要の主要分野は堅調な推移ということになる。

2026 年の鉱山供給は昨年に比べると安定するだろう。南アフリカでは Ivanhoe の Platreef 鉱山が2019年の Styldrift 鉱山以降で初めて稼働する新規開発鉱山プロジェクトとなるが、これを見てもメタル価格の上昇に鉱山会社が素早く反応することがいかに難しいかがわかる。従って、短期的な供給の増加は鉱山生産ではなく、リサイクル供給に限られることになる。2026年第1四半期のリサイクル供給は前年比で 9% 増えたが、その成長率はメタル価格の上昇率に比べると緩やかだ。リサイクル業者は、第1四半期は低品位の廃触媒が増えてリサイクル供給の増加が思うように伸びなかったと報告している。品位が低下しているのは、採算が取れないために2023年と2024年に溜め込まれた自動車触媒を今処理しているからだと思われるが、もしもこれが事実でリサイクル業者が在庫の処理を行っているにも関わらずリサイクル供給が予測に達しないのであれば、今後3年から5年の間にリサイクル供給は堅調に伸びるという我々の見通しは、実際そうならないリスクを抱えることになる。

需要の注目点としては、プラチナは脱炭素化や新しい技術においても重要な役割を果たしていることだ。ドライブトレインの電動化は進んでいるものの、自動車の PGM 需要は底堅い。「Euro 7」や「US Tier 4」、中国の「国 7」など各国の排ガス規制への対応にはより多くの PGM を必要とするため、需要にとってはさらなる追い風になるだろう。とりわけ、2030年までをカバーする中国の第15次5ヵ年計画では 燃料電池自動車の普及目標がこれまでの2倍となる 10万台となり、水素経済の本格的な展開が進む期待がもたれる。長期的な需要喚起の可能性としては、再エネや水素発電などを通じたエネルギー安全保障の強化に向けた各地域の取り組みがあるが、この効果が現れるのは2026年以降になるだろう。新しい技術の分野では、プラチナは結晶つば、シリコン、光ファイバー、データストレージなど、今後大規模化する AI インフラ構築の中で使われている。

以上、プラチナの良好な市場ファンダメンタルズはプラチナ投資の魅力を大いに高めるだろう。2026年のプラチナ市場の供給不足が過去最高であった昨年の37.3トンに比べると 9.2 トンに縮小する予測ではあるが、高い不確実性の中で 2000ドル/オンス の水準で価格が推移しているという事は、これまで4年間の累積供給不足の影響で現物市場が逼迫していることを物語っている。地上在庫を持続可能な水準にまで再構築するには、今後大幅な供給過剰が続く必要がある。

プラチナの供給と需要

2026年第1四半期は外部要因による不確実性の高まりで、投資家が利益確定売り

2026年第1四半期のプラチナ市場は 8.3トンの供給過剰になった。2024年第3四半期以降で初めて供給過剰となった背景は、ETF 売却が7.0トンの純増となったこと、通常は減る傾向にある第1四半期の鉱山生産が例外的に好調だったことがある。

投資需要の内訳は単純ではなかった。ETFが売却され取引所在庫からも現物が流出したが、中国の大型バーを含むインゴットとコインの需要は前年同期比で 37% 増えた。工業需要は低いベースから回復し、自動車と宝飾品需要の減少の一部を補うことができた。

一方、供給サイドは前年同期比で 22% 増えた。南アフリカ(前年同期比+41%) が前年の洪水被害から立ち直って生産を平常化できたことや、第1四半期に予定されていたメンテナンス作業を第3四半期に延期したことで、精錬過程のダウンタイムの発生を免れたことなどが背景だ。対照的にジンバブエとロシアの第1四半期の生産は二桁台の減少となった。リサイクル供給は予想通りメタル価格の上昇で、前年同期比 7% 増えた。

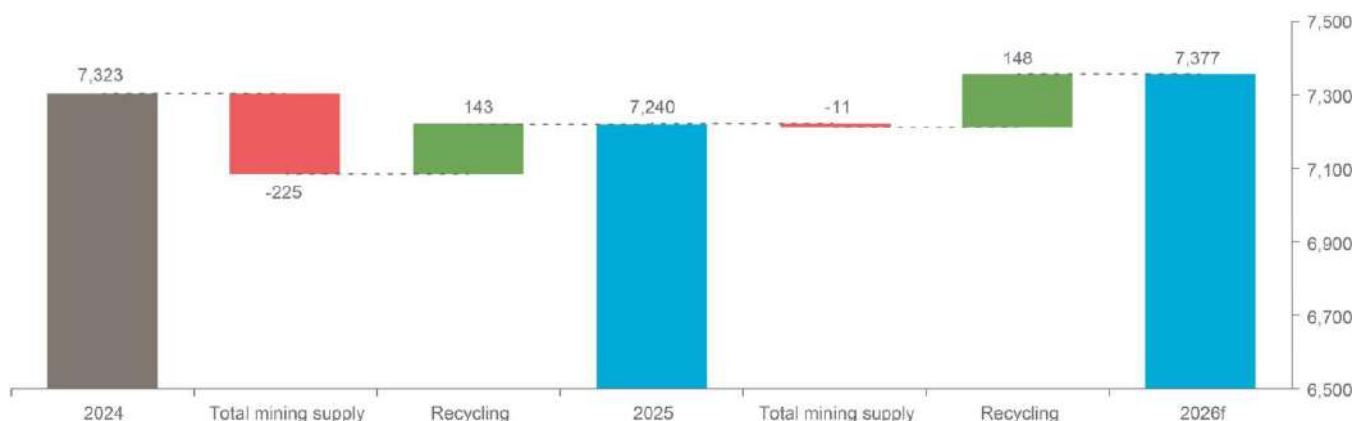
2026年のプラチナ市場は4年連続の供給不足の予測

2026年全体の需給見通しは、2025年にプラチナ価格が2倍以上に急騰したことを受けた市場の反応を反映し、供給全体は4年ぶりの高い水準に、需要は逆に4年ぶりの低い水準になるだろう。それでもプラチナ市場は再び供給不足になる予測だが、不足幅は9.2 トンで、2025年の37.0トンに比べると縮小するだろう。

2026年全体の供給は前年比で 2% 増えて 229.4トンの予測。これまでのところ、鉱山会社はメタル価格の上昇に応じた増産を実現できておらず、公表済み生産目標を見ても生産は横ばいの見込みだ。従って、供給の伸びは価格により反応しやすいリサイクル供給の増加(前年比で 9% 増)が支えることになる。

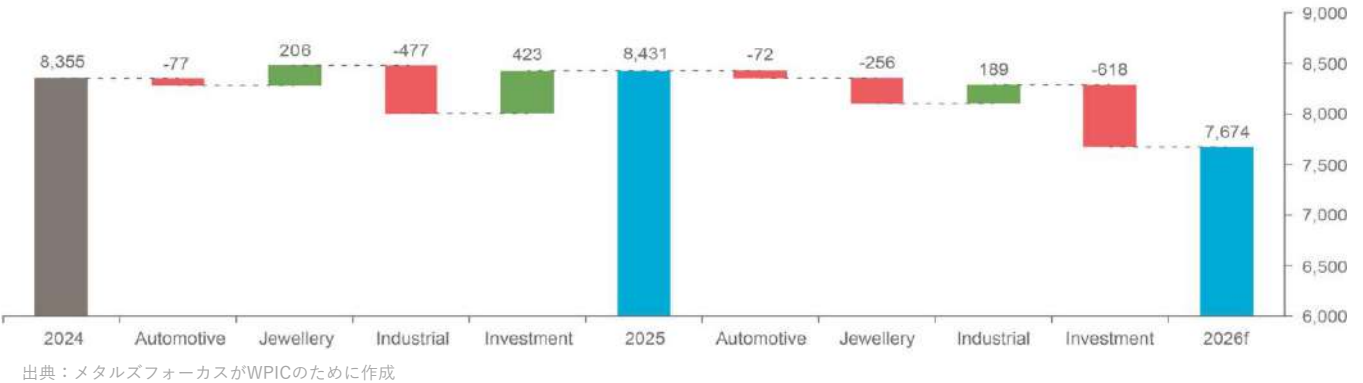
2026年全体のプラチナの需要は前年比で 9% 減り 238.7 トンになる予測。予測を下方修正したのは主に投資市場の動向が原因だ。2025年は取引所在庫とプラチナ ETF 保有高が大きく増加したが、今年はそれぞれ3.1トンずつ流出し、投資需要が 54% 減るだろう。そのほかの需要分野の2026年全体の展望は、第1四半期同様に工業需要の増加が自動車と宝飾品需要の低迷を補う形となるだろう。しかし、やや心強いのは、3月に発表された前回の『プラチナ四半期レポート』以降世界的に経済が低迷しているにもかかわらず、自動車、宝飾品、工業のプラチナ需要予測は全て小幅にしても上方修正され、合わせて 1.9 トンの需要が予測に加えられたことだ。

2024年から2026年(予測)の年間供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

2024年から2026年(予測)の年間需要の変化 (koz)



WPIC 活動のハイライト

我々はプラチナ投資の促進に最も適した戦略を立てるため、世界にネットワークが広がるWPIC のプロダクトパートナー各社との協力を続けている。プロダクトパートナー各社の1月の販売実績は2025年第4 四半期の水準を大きく上回って好調にスタートしたが、第1四半期が進むにつれてその勢いはやや緩やかになった。

欧州および北米のパートナー各社の第1四半期は、ゴールドとシルバーの投資商品の需要が急増してサプライチェーンに負担がかかり、それに加えてプラチナのリースレートが高いまま推移したこともあって、プラチナ投資商品へのリソースが十分に配分できない状況になった。しかし、このような状況にもかかわらず投資需要は旺盛で、プラチナ製品の買い取りと再販、そして数量は限られているが新規鑄造の地金製品を組み合わせるなどして対応しているとの報告を受けている。買い取りと再販は新たなプラチナ需要ではないが、新旧の鑄造商品によって投資家の需要が満たされているということは、プラチナに対する投資家の需要が持続しているといえよう。

中国のWPIC パートナー各社は、1月の旧正月前の購入という季節的な需要や、価格に反応した投資家の関心の高まりなどを背景に、第1四半期は前年同期比で 27%の増加という結果を残すことができた。しかし、第1四半期が終わるまでにそれがいくらか軟化してしまったのは、マクロ的な経済状況に対する懸念があったためと考えられる。我々のパートナー企業であり、LBMA と LPPM の承認資格を持つSGE 会員でもある企業は、小売と卸売を対象に小型プラチナ投資商品製造を新たに開始した。すでに香港で知名度をもつこの企業の取り組みで、香港でのプラチナの認知度と販売の促進に期待したい。

日本でも引き続きパートナーネットワークが拡大している。強いファンダメンタルズ需要と戦略的資産としてのプラチナに対する信頼を反映し、2025年からの勢いが衰えないまま、第1四半期も全てのパートナー企業の売り上げが純増となるなど非常に好調であった。その中の一社は若い世代の投資を呼び込むために、初期投資額の低い 1グラム、2グラム、 5グラムの「プラチナビーンズ」の発売を開始した。

PGM の世界最大市場である中国の動向やデータは、国際的に活動するファンドマネジャーにとってますます重要になっている。PGM 業界の大きな関心を集め、年間のキーイベントとなった上海プラチナウィーク(SPW)は、今年で6回目となり、7月6日から10日にかけて開催され、すでに海外から多くの参加が確定している。また、我々も支援した昨年11月に上場された GFEX のプラチナとパラジウム先物は、今年後半にも海外からの参加者に開放される予定で、今後のプラチナの価格形成における中国の影響力は大きくなるだろう。

CEO トレバー・レイモンド

目次			
はじめに	1	詳細データ表	19
要約データ (koz)	5	用語集	25
2026 年第1四半期レビュー	6	著作権と免責事項	29

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表 1 : 供給、需要、地上在庫のまとめ (トン表示は 2 4 ページの表 7 を参照)

	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q4 2025	Q1 2026
Platinum Supply-demand Balance (koz)									
SUPPLY									
Refined Production	5,523	5,606	5,777	5,557	5,551	-4%	0%	1,597	1,320
South Africa	3,915	3,957	4,133	3,957	4,005	-4%	1%	1,171	1,002
Zimbabwe	480	507	512	516	508	1%	-2%	138	84
North America	265	278	265	212	201	-20%	-5%	55	50
Russia	663	674	677	677	646	0%	-5%	183	136
Other	200	190	191	196	192	3%	-2%	49	48
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+45	+14	+10	+4	+0	-57%	-100%	+29	+0
Total Mining Supply	5,568	5,620	5,787	5,561	5,551	-4%	0%	1,626	1,320
Recycling	1,811	1,515	1,536	1,679	1,826	9%	9%	448	416
Autocatalyst	1,370	1,114	1,163	1,241	1,365	7%	10%	324	312
Jewellery	372	331	298	356	373	20%	5%	102	84
Industrial	69	71	76	81	88	7%	8%	21	21
Total Supply	7,378	7,135	7,323	7,240	7,377	-1%	2%	2,073	1,736
DEMAND									
Automotive	2,766	3,204	3,108	3,031	2,959	-2%	-2%	762	720
Autocatalyst	2,766	3,204	3,108	3,031	2,959	-2%	-2%	762	720
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	1,880	1,849	2,008	2,214	1,958	10%	-12%	519	461
Industrial	2,288	2,491	2,526	2,049	2,238	-19%	9%	578	513
Chemical	690	829	631	578	612	-8%	6%	160	116
Petroleum	193	160	159	182	132	14%	-28%	45	33
Electrical	106	89	93	99	119	6%	20%	27	28
Glass	436	491	692	206	377	-70%	83%	89	94
Medical	278	292	308	320	332	4%	4%	81	78
Hydrogen Stationary and Other	13	22	40	65	69	63%	7%	22	18
Other	572	609	603	600	598	0%	0%	153	146
Investment	-504	388	713	1,136	519	59%	-54%	412	-225
Change in Bars, Coins	273	314	205	402	533	96%	33%	118	105
China Bars ≥ 500g	90	134	162	165	185	2%	12%	49	44
Change in ETF Holdings	-559	-74	296	185	-100	-38%	N/A	263	-255
Change in Stocks Held by Exchanges	-307	14	50	384	-100	> ± 300%	N/A	-18	-119
Total Demand	6,430	7,933	8,355	8,431	7,674	1%	-9%	2,271	1,468
Balance	949	-799	-1,033	-1,191	-297	N/A	N/A	-198	268
Above Ground Stocks	5,067**	4,268	3,235	2,044	1,747	-37%	-15%		

出典: メタルズフォーカス (2022年から2026年予測)

注:

1. 地上在庫: ***113.5トン 2018年12月31日時点 (メタルズフォーカス)
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIC は2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイト参照 (無料)。
5. 2022年第3四半期以降の四半期予測と2022年上半年期以降の6ヶ月予測は、21ページの表3と22ページの表4にそれぞれ含まれている (供給、需要、地上在庫)。
6. 26ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

2026 年第1四半期のマーケットレビュー

2026年第1四半期のプラチナ市場は8.3トンの供給過剰となり、前年同期比で28.8トンもの大きな変動となった。これは供給が増えたことに加え、プラチナ価格の下落やマクロ経済の悪化及び地政学リスクの高まりなどで投資家がETFの売却に大きく動いたことが背景にある。供給は前年同期比 18% 増えて54.0 トンで、その内訳は鉱山生産が 20% 増の 41.1 トン、リサイクル供給は 7% 増の 12.9 トンだった。プラチナの需要はETFの売却や取引所在庫の流出などで、全体で前年同期比 31% 減って 45.7 トンとなった。自動車需要と宝飾品需要が落ち込んだ一方で工業需要は増えたが、これは主に前年同期にガラス産業の需要がネットでマイナスだったためだ。第1四半期は地政学リスクが高まってエネルギー価格が大きく上がり、それに伴ってインフレリスクが再燃して金利切り上げ予測が強まったため、貴金属全体の上昇機運が抑えられた。しかし、その中でも第1四半期のプラチナ価格は2008年第2四半期の過去最高平均価格を更新した。

チャート 1：2026年第1四半期の需要供給バランス (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

供給

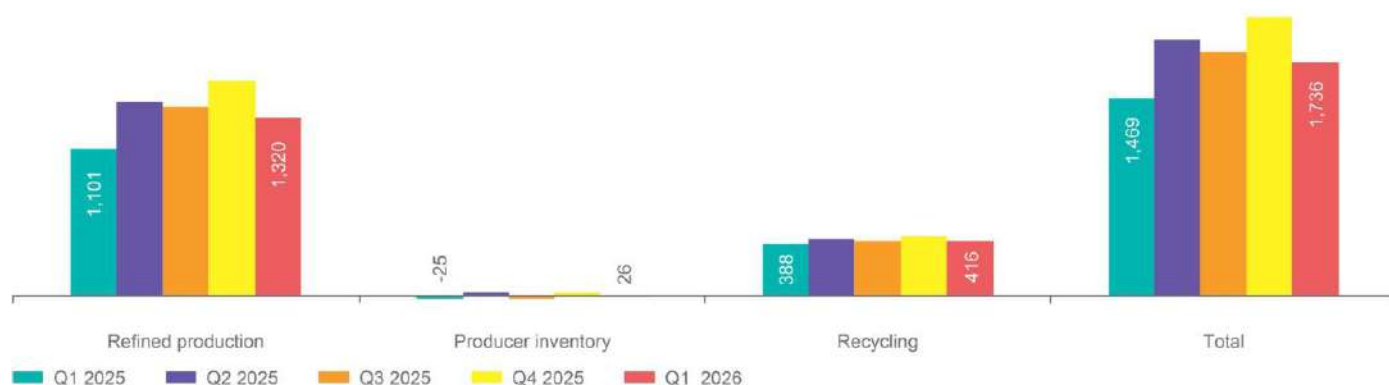
世界の精錬プラチナ供給は前年同期の低いベースから大きく回復し、20%増えて 41.1 トンになった。南アフリカの生産は、Valterra Platinum と Implats の精錬能力が大幅に増加したことで前年同期比41%増えて 31.2 トンになり、第1四半期としては例年にない増加となった。Valterra では、通常第1四半期に行うメンテナンス作業と毎年の在庫確認作業のスケジュールが第3四半期に延期され、通常季節的に増えない第1四半期の生産が増えた。さらに昨年の第1四半期の洪水による中断からも立ち直って操業が正常化し増産に寄与できた。Implats では、第4溶鉱炉の再構築が行われたものの、1.1トンの仕掛かり在庫の処理があったおかげで精錬プラチナの生産量を増やすことができた。

ジンバブエの生産はZimplatsの減産が響いて、前年同期比で26%も減って10年ぶりに少ない 2.6 トンになった。この減産は溶鉱炉のメンテナンスがあったためだが、操業が再開されたのは 3 月半ばで、0.9トンの仕掛かり在庫が来期に持ち越された。ロシアでも生産スケジュールが次期以降に変更されたため前年同期比で 24% 減って4.2 トンになった。北米の生産は前年同期比で安定する予測。

リサイクル

世界のリサイクル供給は前年同期比で7% 増えて 12.9 トンになったが、地域による自動車触媒のリサイクル量の差は続いた。もっとも大きく伸びたのは北米で、メタル価格の上昇とともに、税控除など有利な政策が国内のリサイクル網(特に製錬・精錬業者)の規模拡大に貢献した。欧州では、これまで UAE の前処理施設に送られていた資材の流れが2月28日に始まったイラン戦争で滞り、代替ルートを使わざるを得なくなった。リサイクル業者によると回収された自動車触媒は平均的に古い年代のものが多くなり、そのため前年と比べて車両一台の触媒装置から取り出すプラチナの量が少なくなり、廃車両は増えたものの回収できるメタルの量は伸びなかった。中国では、年初に新車や買い替えを促す支援策が定額支給から車両の販売価格に応じた補助金制度に移行したために新車販売が抑えられ、リサイクル量に限度が生じた。日本は「使用済み自動車取引台数の推移統計」を見る限りではリサイクル量が減り続けている。

チャート 2：プラチナ供給 (koz)

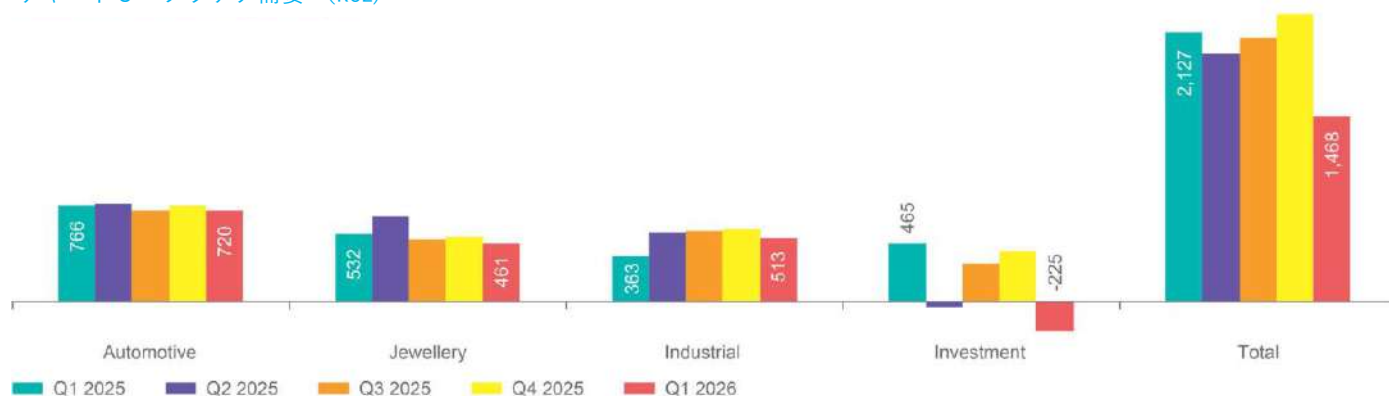


出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

需要

2026年第1四半期の世界のプラチナ需要は、主に投資資金の流出と複数の主要分野の需要が軟化したため、31%(20.5トン) 減って 45.7トンだった。プラチナ ETF の保有高は、価格上昇が利益確定売りを誘い、7.0トンの売り越しになった。また、米国の関税が発表されてから一年が経って詳細がはっきりしてきたことやEFP取引も減ったことで、取引所在庫、特にCME承認倉庫の現物は3.7トン減った。宝飾品と自動車のプラチナ需要も減ったため、一部の工業需要の成長を完全に相殺してしまった。対照的に現物投資の需要は好調だった。

チャート 3：プラチナ需要 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

2026年第1四半期の自動車のプラチナ需要は、地域によってハイブリッド車とエンジン車の生産にばらつきがあったことから、前年同期比で 6% 減って (-1.4 トン) 22.4トンだった。

欧州の自動車のプラチナ需要は、触媒装置搭載車の生産が7%減ったため、前年同期比で6%減って7.1トン(-0.46トン)だった。普通乗用車生産は前年同期比マイナス4%で、21%も減った純エンジン車の需要をハイブリッド EV 車が補うことはできなかった。一方で、バッテリー電気自動車 (BEV) の生産は前年同期比で 17% 増え、欧州全域にわたる電動化の加速、再エネ発電の普及や政策支援を通じて、エンジン車のシェアを奪い続けている。新たな中東地域の危機に端を発するエネルギー価格の大きな変動も長期的なエネルギー安全保障と電動化の強化につながる。大型輸送車の分野では触媒装置搭載車の生産が前年同期比で 4% 減り、プラチナ需要にはさらにプレッシャーとなった。

北米では全ての車両分野でプラチナ需要が前年比で 12% 減って 3.2トン (-0.46トン) となった。普通乗用車生産は 3%減ったが、触媒装置搭載車の減少が 3% に抑えられたのは、ハイブリッド車の生産が前年同期比で 14% 増えたためだった。また小型車の生産に比重が置かれたこともプラチナ需要の減少を大きくした。また、トラックやバスの部門の不振がそれに輪をかけ、プラチナを多く使用する大型輸送エンジン車の生産は30%近く減った。

日本では大型輸送車の生産が増えたものの、普通乗用車と一般道を走行しない車両の減産を補うことはできず、プラチナ需要は前年同期比で 18% 減って 1.9トン (-0.43トン)だった。小型商用車も含めた普通乗用車の生産は前年同期比で 7% 減ったが、中でも普通乗用車が 2%の減少にとどまったのに比べて、SUV は7% も減った。

中国の自動車のプラチナ需要は前年同期比で 4% 減って 3.9トン (-0.18トン)だった。新車購入を促す下取りプログラムの補助金がカットされたことで2025年に前倒し需要が発生したが、年初には在庫過剰となったため販売に影響した。この結果、普通乗用車生産が10%減り、その中でも触媒装置搭載車はマイナス 14%と、より急激な減産となった。市場調査会社GlobalDataの第1四半期のパワートレイン報告書によると、純エンジン車とハイブリッド普通乗用車の生産はそれぞれ 18% と 5% 減り、さらにディーゼル車の生産も 20%減った。一方で、これらとは対照的に BEV の生産は概ね安定していた。大型輸送車の分野では、触媒装置搭載車の生産が33%増加した。燃料電池自動車の生産も低いベースからではあるが前年同期の 4 倍に成長した。

その他の地域の自動車のプラチナ需要は 1% 増えて 6.3トン (+62.2 キロ)になった。触媒装置搭載の普通乗用車生産は全体的にわずかな減少、大型輸送車生産も5%減ったが、より多く PGMを使用するピックアップトラックやSUVが多いインドの自動車生産が好調で、他の地域の低迷を十分に補うことができた。

宝飾品需要

2026年第1四半期の世界のプラチナ宝飾品の需要は、メタル価格が過去最高値まで上がった中でも欧州の高級宝飾ブランド品の需要が好調だったが、多くの地域で根本的に製造量が減ったために相殺されてしまい、前年同期比で 13% 減って 14.3トンだった。

北米のプラチナ宝飾品製造は、プラチナ価格が2倍以上に上がったために貴金属純分ベースで需要が減って前年同期比で 2% 減り、販売高は重量ベースで推定 4% 減った。プラチナ宝飾品の輸入も、価値ベースで前年同期比推定 31%も減り、重量ベースでは半減した。(ただし 3月の貿易データはまだ公表されていない。)しかし、輸入品は年間の需要減の大半を占めているものの、購入量に占める割合はわずかだ。需要の減少から見た傾向として明らかなのは、消費者の予算に応えるために宝飾品一点当たりの貴金属含有量を減らし軽量化と低価格化に向かっていることだ。

欧州の2026年第1四半期のプラチナ宝飾品製造は推定 7% 増えた。スイスのプラチナ製腕時計の品位証明刻印受付数は前年同期比で15% 増え、5四半期連続で増加し、2025年は我々が2007年から持つデータの中で過去最高を記録した。ちなみにゴールド製腕時計の品位証明刻印受付数は同時期 10% 減った。スイスとドイツではプラチナ宝飾品の需要も強く、プライダル商品とプラチナ純度95%の商品の需要はおおよそ 12%から15%増えた。対照的に、一般消費者を対象とする プラチナ純度60%の商品の需要は低迷し、生活費の上昇によって世帯の家計に圧力がかかっていることがわかる。

日本ではプラチナ価格が円建てで133%上がり、プラチナ宝飾品製造は15%減ったが、関係者はそれでも業界全体の見方は楽観的で売り上げも維持できており、実際増えたケースもあるとしている。これまで続いていたプライダル分野の需要減少が止まり、これが需要の落ち込みを和らげた。株価高騰による資産形成も宝飾品市場にプラスに働いている。

中国のプラチナ宝飾品製造は前年同期比で 42% 落ち込んだ。これは、プラチナ価格の上昇、消費者センチメントの悪化、宝飾業界サプライチェーン全体で続く在庫整理、そして投資も兼ねていた大型の宝飾品から投資用インゴットへのシフトなど、いくつかの要因が同時に進行しているためだ。昨年11月1日から上海黄金交易所を通じて引き渡されるプラチナに対する 13% のVAT 免除撤廃も需要に重荷になった。一方で、斬新なデザインや商品開発力を持ち、有力小売店と協力体制を築いているメーカーは比較的好調な実績を収めた。

インドのプラチナ宝飾品製造は前年同期比で15% 減の1.4 トンになり、2023年第3四半期以降で最も低い水準となった。宝飾品製造の非常に大きな部分を占める輸出が減速したのが大きく、3月の貿易データはまだ公表されていないが、2023年第3四半期以降で最も輸出が落ち込んだ四半期になる見通しだ。米国の関税をめぐる環境が不確実であることに加え、中東の紛争のおかげで保険料の引き上げや出荷の遅延が生じて供給網が混乱した。その結果、第1四半期は米国に変わって英国が最大の輸出先になった。

インドは国内需要も軟調で、大手メーカーやチェーン店などの店舗拡大もあまりなかった。また、3月はインドの会計年度の締めにあたるため、小売業者の動きが鈍く在庫のさばきにも遅れが見られた。2月から3月にかけてプラチナ価格の調整局面があったが、ルピー安がその分を相殺してしまい、価格の乱高下を嫌って消費者が離れてしまった。プラチナ宝飾品を扱う業者はマージンを削ってまで価格を割り引いたが、裁量的支出が増えない消費者の紐は緩まなかった。

工業需要

2026年第1四半期の工業のプラチナ需要は前年同期比で 41% 増えて 16.0トンだった。新たな生産能力の増強があったガラス産業の需要がネットで 5.1 トンになったことが大きい。これが、3.6トン (-4%)に減った化学産業の需要と、1.0トン (-28%)に減った石油産業の需要を補った。

石油

2026年第1四半期の石油産業のプラチナ需要は、前年同期比で28%減った。ガス・ツー・リキッド(GTL)プラントのプラチナ触媒の定期交換需要が減ったのが主因だが、石油需要の長期的な将来性という構造的な問題に加えて、米国・イスラエルとイランとの戦争で原油供給網が混乱し、定期メンテナンスや触媒交換のスケジュールが影響を受けた。湾岸地域ではエネルギーインフラが攻撃を受け、イランがホルムズ海峡を閉鎖したことで、精鍊設備の大部分が停止に追い込まれている。この紛争に直接影響を受けていない東アジアの精鍊所でも、原油価格の高騰がもたらす収益増の機会とエネルギー安全保障への懸念を反映して、精鍊処理をできるだけ維持するために定期的なメンテナンス作業を延期した。中東諸国の原油への依存度が低い米国では、収益の増加と石油製品の需要の拡大を受けて精鍊所の稼働率を最大限に上げている。

化学

2026年第1四半期の化学産業のプラチナ需要は、前年同期比で4%減り 3.6トンとなった。これはプロパン脱水素(PDH)及びパラキシレン(PX)の生産能力増強がなく、プラチナの需要が定期的な触媒交換に限られたためだった。

石油精製産業同様に、イラン戦争とホルムズ海峡の封鎖による通航の乱れは石油化学産業にも原料調達や物流の遅れを引き起こし、メーカーにとって大きな問題になっている。影響は肥料生産にも及ぶ。肥料生産は硝酸利用の最大分野だが、その硝酸の生産にはプラチナベースのガーゼを触媒とするアンモニア酸化プロセスが用いられる。アンモニアの主な輸出元である湾岸諸国からの供給が途絶え、さらに天然ガス価格の高騰で生産コストが大きく上昇した。これとは対照的にシリコン産業のプラチナ需要は概ね安定している。

医療

2026年第1四半期の医療のプラチナ需要は、前年同期と変わらず 2.4 トンだった。インプラント型デバイスや低侵襲治療デバイスの増加が構造的に需要を支える。高齢化、医療へのアクセスの向上、世界的なガン罹患率の上昇を背景にプラチナを利用する医療機器や医薬品の需要は増え続けている。

ガラス

2026年第1四半期のガラス産業のプラチナ需要は、在庫プラチナが市場に放出されて需要がマイナスとなった前年同期から大きくプラスへと回復した。AI関連やプリント基板の需要拡大に応じてアジアでグラスファイバー生産能力が新たに増強された。対照的だったのは液晶ディスプレイ(LCD)向けのガラスで、新規の生産能力増強がなく需要が低迷した。中国以外の地域では、業界の再編や競合の圧力などでグラスファイバー生産が伸びず、専門性の高い最先端技術分野に需要が集中する度合いが高まっている。

電子材

2026年第1四半期の電子材産業のプラチナ需要は、前年同期で大きく25%増えて(+0.18トン) 0.87トンになった。AI技術が牽引するデータセンターの拡張、先端半導体への投資強化が需要の成長を支えた。ストレージ市場ではハイパフォーマンスコンピューティング(HPC)の旺盛な需要がストレージ要件を押し上げ、HDDメーカーの生産はフル稼働が続く。さらに昨年から大量生産に移行した熱アシスト磁気記録(HAMR)技術の普及も広がった。より優れた記憶密度と大容量のドライブに対する需要がますます高まり、ユニット毎のメタル使用量の増加が続いている。

半導体産業では、先端プロセスノードの進化に伴って高純度プラスチック製スパッタリングターゲットへの依存度が高まっているため、それを支える半導体自体のプラチナ需要と新たな生産能力の拡張の両方が旺盛な需要を反映している。

水素: 定置型燃料電池とその他

2026年第1四半期の水素関連のプラチナ需要は、前年同期で9%成長したが、2025年に見られたような政策主導の需要急増は見られなかった。韓国の10 MW 規模のアルカリ水電解装置プロジェクトは水素生産の規模拡大が進展していることを証明したが、固体高分子型水電解装置 (PEM) のプロジェクトの規模拡大はならず、小型コンテナ型装置を使うものに止まった。Plug による Stream Data Centres へのインフラ売却は PEM 燃料電池の将来的な活用の可能性を示しているが、現時点では具体的な発注や導入には至っていない。

その他

2026年第1四半期のその他の工業分野のプラチナ需要は、主にエンジン車の減産を背景に前年同期で3% (-0.15トン) 減って 4.5トンだった。排ガス規制のさらなる厳格化によって、メーカーではスパークプラグの電極にプラチナの代替としてイリジウムとルテニウムを使うケースが増えており、プラチナのシェアは徐々に減っている。しかし、この需要減を一部補ったのが、センサーのプラチナ需要だ。我々はこの状況を受けて、需要予測モデルの前提条件であるスパークプラグのプラチナ使用量を減らし、その代わりに燃費向上や耐久性向上のために予想よりも急速に採用が進んでいるワイドバンドO2センサーの需要を正式に分析モデルに取り入れた。この変更によって自動車部品を取り巻く業界の現状と変化を予測作業に正確に反映できるようになった。

投資需要

2026年第1四半期のプラチナの投資需要はネットベースで7.0トンの売り越しとなり、14.5トンの買い越しとなった前年同期と逆の状況になった。しかし、需要の総量だけからは取引所在庫とETFはマイナス、インゴットとコインの需要は大きなプラスという隔たりがあったことは明確にはわからない。

今年は日本と中国の各市場で3月までにインゴットとコインの需要が伸び、前年同期比で42% 増えて(+0.96トン) 3.3トンになったが、その一方で米国の需要は急減した。世界全体の成長率が高くなったのは前年同期が相対的に低かったためだが、絶対量での需要は維持されており第1四半期の結果は3.1トンを超えた。

米国の個人投資家需要はネットベースで前年同期比ほぼ半減 (-0.46トン)して0.52トンになった。これはプラチナのリースレートが高く、メーカーにとって小型インゴットやコインの製造が不可能なほどのコスト高になって需要に影響したためだ。これ以外にも小売市場で売却が増えたことも需要を押し下げた一因だが、ここで売却されたプラチナ投資商品の多くは、第1四半期中にディーラーから新たな投資家に売られたケースが多かった。したがって第1四半期のネットベースの需要には反映されていないが、個人投資家の関心は需要総計の数字が与える印象よりも実際は強かったといえよう。

欧州のインゴットとコインの需要は第1四半期も伸びず、前年同期比で22%減、前期比では14%減となった。2026年の初めはプラチナ価格が上昇して投資家の関心が集まったが、2025年第4四半期同様に投資商品の供給が限られたために需要は伸びなかった。また、メディアが過去最高値となったゴールドやシルバーを大きく取り上げたため、プラチナへの関心が削がれてしまった面もある。

日本の投資需要はすでに高い水準にあった2025年第4四半期からさらに伸びて、3月までに0.65トンの純増に達した。前年同期と比べた伸びが非常に大きいのは昨年在例外的に低い水準だったことによる。需要は第1四半期を通じて堅調だったが特に前半が強く、日本の投資家の行動がこれまでとは違って、価格の上昇局面で購入を増やすという流れに変わっていることがわかる。とはいえ、従来の投資家による利益確定売りもあったためグロスでの売却も続いた。

チャート4：プラチナ投資（koz）



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

中国では大型バーを含むインゴットとコインの投資が前年同期比で42%増えた。プラチナ価格が大きく上昇して投資家の関心が高まった1月に増加が集中し、2025年終わりに広州先物取引所でプラチナ先物が上場されたことも寄与した。しかしその後2月、3月に価格調整が入ると投資家センチメントは悪化し、月比の投資需要は下落した。

そのほかの地域ではインゴットとコインの投資が、非常に低いペースからではあるが226%伸びた。インドの投資需要は2025年下半年から注目を浴び始め、第1四半期は多少鈍化したものの2026年に入っても伸びが続いている。不安定な株式市場や地政学リスクの高まりがゴールド、シルバー、プラチナのインゴットとコインの販売を支える。一部の宝飾業者は売れ残りのゴールドやシルバーの宝飾品を処分してインゴットとコインを仕入れている。2025年にはプラチナ投資商品は小売店ではほとんど販売されておらず、主に精錬所や地金ディーラーが扱っていたが、消費者の認知度やポートフォリオ分散化需要に支えられて、今ではプラチナ商品の製造業者はインゴットやコインの生産体制を整えている。オーストラリアではゴールドとシルバーの投資需要が広がったことでプラチナにも昨年後半から関心が集まっている。1月と2月には大きく需要が伸びたが、3月に価格上昇の勢いが衰えると、新たな需要が減って売却が多少増えた。

2026年第1四半期のプラチナETFの保有高は急減し、3月31日現在で7.9トンとなっている。欧米と日本以外の地域の保有高は4.6トン減ったが、これは主に南アフリカで高価格を受けて利益確定売りが大きくなったためだ。北米のファンドは2番目に大きな減少となり保有高は3.4トン減った。欧州の投資家センチメントはややマイナスに転じ、ネットで0.9トンの売り越しとなった。唯一日本の保有高が0.96トン増えた。

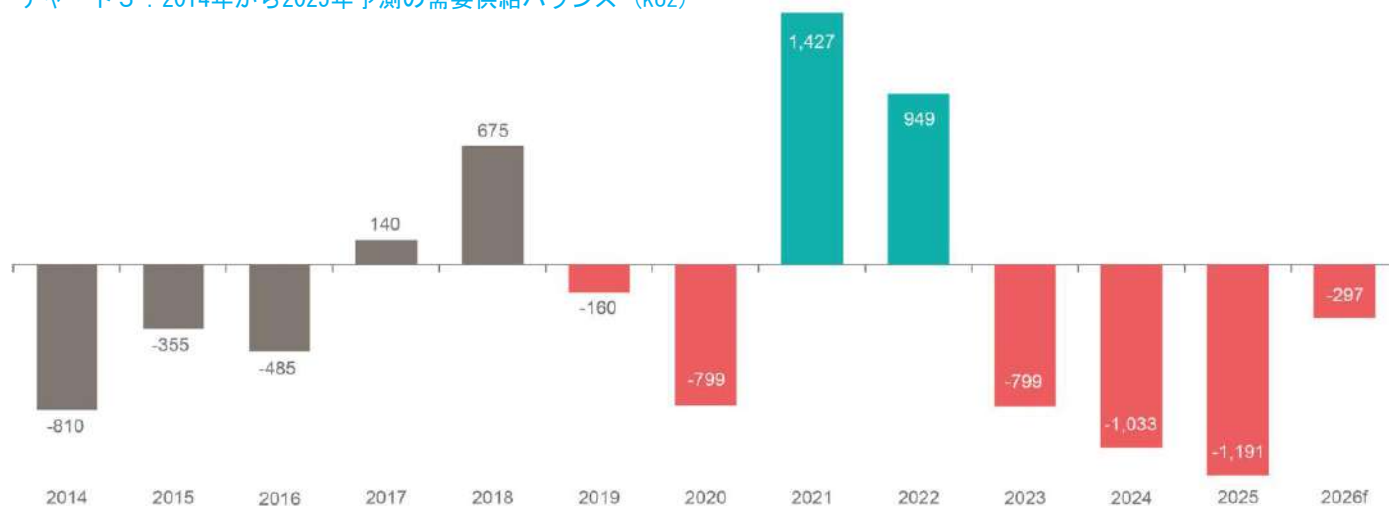
2026年第1四半期の取引所在庫は3.7トン減った。主にCME承認倉庫から引き出されたが、1月に通商拡大法232条調査の結果が発表されて重要鉱物への関税懸念が消え、2025年を通じてニューヨーク市場で高くなっていたEFP取引のプレミアムが減退したことによる。

2026 年の展望

2026年のプラチナ市場の展望は、地政学リスクの高まりやエネルギー市場の混乱の影響で不透明な部分が多い。中東地域の紛争によるエネルギー価格の上昇でインフレリスクが再燃し、マクロ経済政策はタカ派的な傾向が強くなり、貴金属市場全体に対してセンチメントが好転しにくくなっている。そのため2026年のプラチナ市場は、需要の軟化に伴って 9.2トンの供給不足になるだろう。2025年の37.0トンという不足幅から大きく縮小し、過去4年間の供給不足としては最も少ないが、4年連続の構造的な供給不足であることは否定できない。

プラチナの供給は前年比で2%増えて229.4トンになる予測。鉱山供給は概ね横ばいで172.7トン、リサイクル供給は廃触媒の回収が増えて9%増の56.8トンになる見込み。プラチナの需要は9%減って238.7トンになるだろう。自動車の需要は2%減るが、工業需要はガラス産業が牽引となって9%増えるだろう。宝飾品需要はマイナス12%、投資需要も大きく54%減って16.1トンになる予測。これは昨年と違って取引所在庫からの流出とETFの売却が増えるためだが、その反面、個人投資家需要と中国の500グラム以上の大型パーの需要が大きく伸びるだろう。

チャート5：2014年から2025年予測の需要供給バランス（koz）



出典：2014年～2018年はSFA(オックスフォード)、2019年～2025年予測はメタルズフォーカス

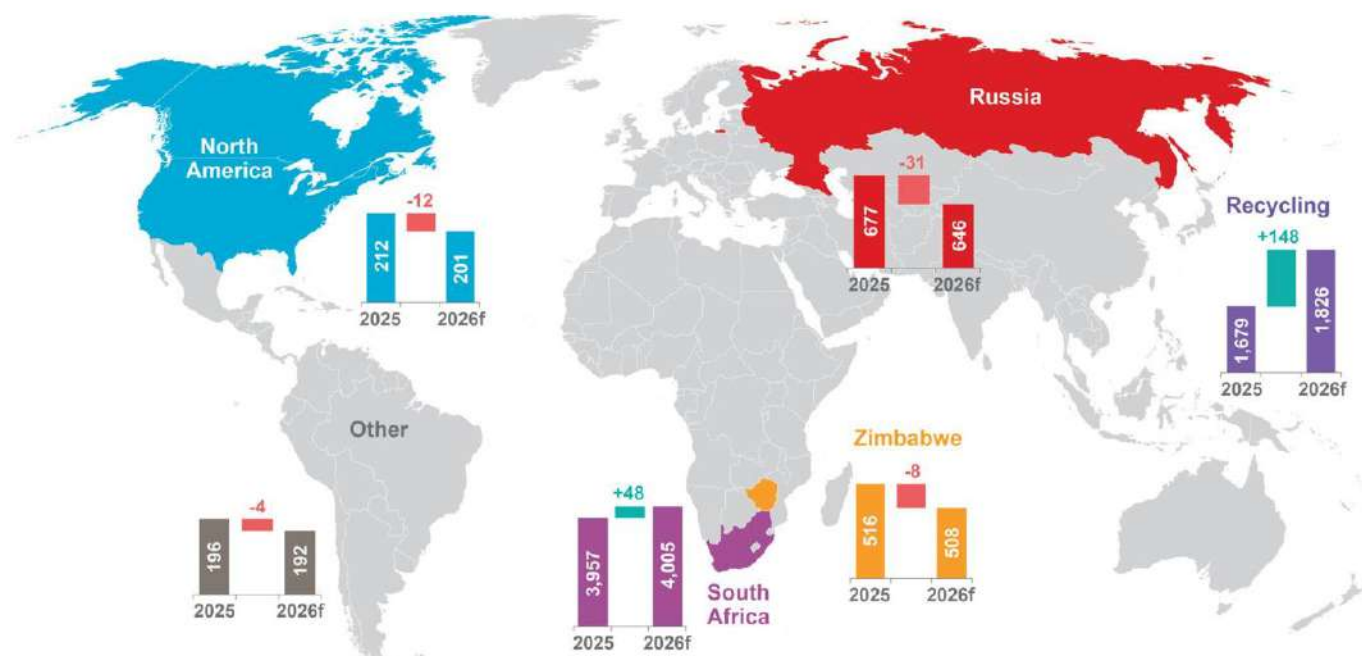
供給

2026年の世界のプラチナ鉱山供給は、南アフリカで少し増えるも他の地域で減産するため、概ね横ばいの172.7トンの予測。過去12ヶ月間の高いPGM価格のおかげで鉱山採掘の経済性は大きく改善し、これまでの収益下振れリスクは緩和された。現在の地政学リスクの変動、特にホルムズ海峡の通航制限は化学薬品や試薬のインプットコストの上昇につながり、一部の地域のPGM生産コストを押し上げる可能性がある。しかし、バスケット価格の高止まりでこの影響の大部分は打ち消され、リスクとしては無視できないものの現時点で世界の鉱山供給に大きな混乱は生じないだろう。

南アフリカの主要生産会社の多くは、多少ばらつきがあるが全体の生産量にはあまり変化がない予測。Implatsでは第4溶鉱炉の再構築が完了して蓄積した仕掛かり在庫を処理できるようになるため、今後9ヶ月間で自社精錬生産の増加が見込めるだろう。

Valterra Platinum では、2025年の洪水被害を受けた Amandelbult 鉱山が全面回復するが、仕掛かり在庫の放出量が少ないため生産量は相殺されるだろう。シバニェ・スティルウォーターでは、新たな K4 坑道の操業による生産でも古い坑道の減産を補えないため、結果として全体の精錬量は少しマイナスになるだろう。Northam は Booyseendal 鉱山の増産や Platreef プロジェクトの立ち上げに伴って外部から請け負う加工処理が増えて、精錬生産量が緩やかに増加するだろう。

チャート 6 : 2025年と2026年の供給の変化 (koz)



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

Platreef プロジェクトでは初期段階の低品位鉑石を計画的に処理するために、2026年上半期の生産に制限が生じる予定で、年間約6.2トンとされるフェーズ2に移行するまでには3年かかると考えられる。

ジンバブエでは安定生産が見込めるため、前年比ほぼ同じ 15.8トンの生産が見込めるだろう。今年第1四半期にメンテナンス作業のために0.9トン蓄積した仕掛かり在庫は第2四半期に処理予定だ。ロシアの生産は鉑石の品位低下のおかげで減少する予測。北米の生産もニッケル生産からの副産物が減るため、プラチナ生産は多少減るだろう。

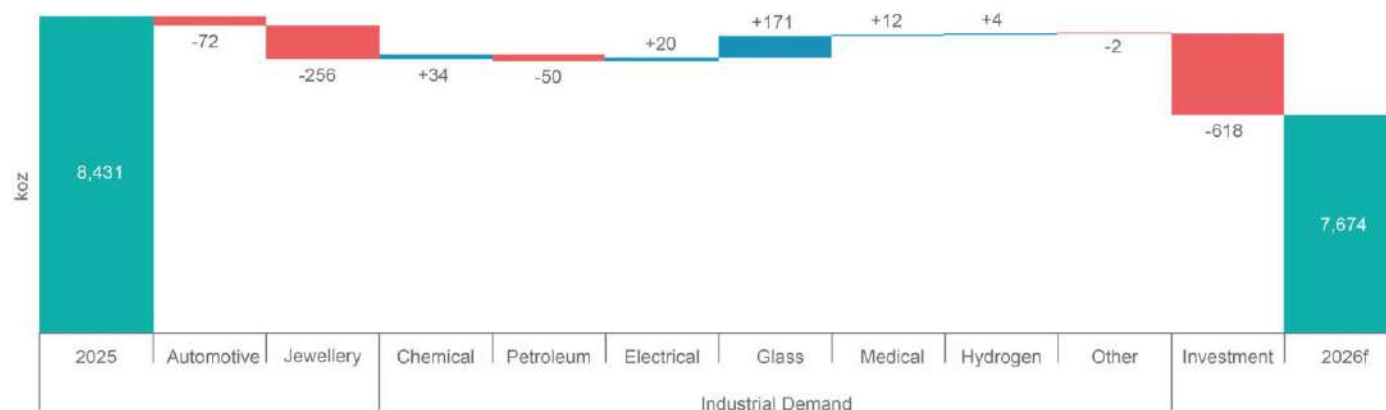
リサイクル

2026年のリサイクル供給は前年比で 9% 増えて 56.8トンになる予測だ。北米の自動車触媒のリサイクルに有利な政策支援のおかげでリサイクル量が増加し、世界全体で10% (+3.9トン)増えるだろう。欧州では中東の貿易網の混乱で廃触媒の流通が変更され、EU のリサイクル政策やメタル価格の上昇に支えられて、リサイクル供給が増える見込みだ。しかし、回収される触媒の多くは古い車両のもので、リサイクルされるPGMの量は低下していると報告がある。プラチナのリースレートの急激な上昇はおさまっているもののメタル価格が高騰しているため、リサイクル業者の運転資金には制約が生じている。中国では 廃車に対する報酬が飽和状態になり始めて以前ほど魅力的な見返りがなくなっているため、リサイクル量は2025年の水準を下回る見込み。宝飾品スクラップは5%増えて11.6トンになるだろう。増加が大きいのは日本で、円建てPGM 価格が約2倍に上がり宝飾品スクラップが 10% 増える予測。

需要

2026年の世界のプラチナ需要は 9% 減って 238.7トンになる予測。ETF 保有高がネットベースで緩やかに減少し、取引所在庫も流出する予測の投資需要の減少が主な背景だが、インゴットとコインの強い需要で一部は相殺されるだろう。宝飾品と自動車の需要は減るが、工業需要は改善するだろう。

チャート 7：2025年と2026年（予測）の分野別需要の変化



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

自動車需要

米国・イスラエルとイランの紛争を発端として不安定になった中東の情勢は、2026年の自動車産業にとって大きな逆風だ。ホルムズ海峡の閉鎖は世界的なエネルギーショックを引き起こし、原油やLNG価格の上昇はエンジン車の維持にかかるコストを押し上げる。電気料金も上がり、さらにはヘリウムの供給制限が半導体生産を脅かしているため、半導体が多く使われる EV にとって大きなリスクになっている。一方で、主要市場では政府主導の補助金制度が変更され、2026年の自動車のプラチナ需要の予測に影響を及ぼしている。例えば中国の新エネルギー車(NEV)減税、米国のEV購入に対する税控除の撤廃、日本のクリーンエネルギー車(CEV)に対する補助金の見直し、そして触媒装置搭載の普通乗用車と小型商用車を支援するインドの GST 2.0 などがある。こういった状況を受けて、市場調査会社GlobalData は世界の普通乗用車・小型商用車の生産予測を9350万台に変更した。これは前回の2025年第4四半期の予測からは減るが、前年比では1%の増加だ。大型輸送車と一般道を走行しない車両の生産予測はそれぞれ349万台と 83万8千台で、どちらも前年比で 1% の増加となる。

普通乗用車・小型商用車の分野の触媒装置搭載車の生産は2%減り、そのうちハイブリッド車は12%増加するが、純エンジン車は8%減。BEV 生産は増加傾向で前年比 14% 増。そのためプラチナ需要は全体で前年比 2% 減って (-2.2 トン) 92.0トンになる見込みだ。大型輸送車の分野においては、インドの純エンジン車と中国の燃料電池車の増加が需要を支えるだろう。

欧州の自動車のプラチナ需要は、エンジン車の構造的な減少が続くため前年比で7%減って(-2.1トン) 27.3トンの予測だが、近く11月に導入される Euro 7 排ガス規制では車両ごとに使用する PGM の量を増やす必要があるため、需要の低下が食い止められるだろう。BEV 生産は引き続き増加傾向にあり、前年比で 26% 増えて 300万台になるだろう。

北米では普通乗用車・小型商用車のハイブリッド車が 17% 増えるため、プラチナ需要は前年比で 2% 増えて (+0.21トン) 14.5 トンになる予測。大型輸送車の生産は、ペントアップ需要や EPA 2027年排ガス規制をめぐる規制が明らかになるにつれ注文が増えており、これまでの予想を上回っている。このような要因を背景に生産が回復し、大型輸送車の触媒装置搭載車の生産は16%増える予測だ。環境保護庁(EPA) とカリフォルニア州大気資源局(CARB) の間の争いで、CARB の「Low NO_x Omnibus regulation」(EPA2027 相当) と「Advanced Clean Trucks」に基づくゼロエミッション車(ZEV) 販売義務は一時的に停止されている。2026年2月に「2009 Endangerment Finding」が撤回されたことで自動車メーカーへの排ガス規制順守圧力は緩和されたが、Tier 3 排ガス規制は維持されており、また Tier 4 規制は2027年1月に実施予定だ。これらの基準は窒素酸化物、一酸化炭素、炭化水素などの基準汚染物質を対象としており、より厳格な Tier 4 の基準値をクリアするには触媒装置により多くの PGM が必要となる。普通乗用車の BEV 生産は、通商拡大法232条に基づく関税による車両コストの上昇や、連邦政府によるEV 税控除の撤廃などのため 前年比 1% 減って 93万台になる予測だ。

日本の自動車のプラチナ需要は前年比で 15% 減って 7.9トン (-1.15トン) となるだろう。普通乗用車・小型商用車の生産が前年比で 1% 増えるが、その中の純エンジン車の生産は 10% 減る予測。ハイブリッド車と大型輸送車の触媒装置搭載車の生産はわずかではあるが増えるだろう。BEV の生産は改定されたクリーンエネルギー車(CEV) に対する補助金を根拠に普通乗用車・小型商用車、大型輸送車全ての分野で増える予測。この改定で BEV に対する補助金の上限は 90万円から 130万円に、PHEV に対する上限は 60万円から 85万円にそれぞれ引き上げられた。しかし、255万円だった燃料電池自動車に対する補助金は150万円に下げられた。

中国の自動車のプラチナ需要は前年比で 1% 増えて(+0.18トン) 16.9トンになる予測。普通乗用車のハイブリッド車が 10%、大型輸送車の燃料電池自動車 が 40% それぞれ増える需要が、純エンジン車の需要減少を補うだろう。BEV の生産は前年比で 7% 増える見込みだが、伸び率は鈍化している。NEV 購入を促す廃車と買い替え制度の変更や NEV 購入の免税額の上限が 1万5千元に抑えられたことなどが背景だ。

その他の地域の自動車のプラチナ需要は前年比 2% 増えて (+0.56トン) 25.5トンになる予測。これは主にインドの物品税の改定(GST 2.0)に伴って普通乗用車・小型商用車の税率が28%から18%に引き下げられ、大型輸送車の触媒装置搭載車、純エンジン車、ハイブリッド車の生産が増えることによる。

宝飾品需要

2026年のプラチナ宝飾品需要は12%減って60.9トンになる予測。中国と北米の需要低迷が足を引っ張るが、安定している欧州と緩やかではあるがインドの宝飾品製造が増加見込みで、世界全体の落ち込みは抑えられるだろう。

北米の需要はコロナ禍以降の右肩上がりの需要傾向に終わりが訪れ、7%減る予測。プラチナ宝飾品の人気は衰えているわけではないが、メタル価格の高騰が重量ベースの消費量を抑え、生活費の上昇も小売販売に影響するだろう。しかし、プラチナ宝飾品の需要は絶対量としてはゴールド宝飾品よりもはるかに小さいため、2026年の需要縮小は割合的にはゴールドほど深刻にはならないだろう。プラチナはゴールドと比較すると絶対的な価値水準がまだ低くて相対的に買いやすい価格帯にあり、価格上昇による需要崩壊の程度は限定されるだろう。

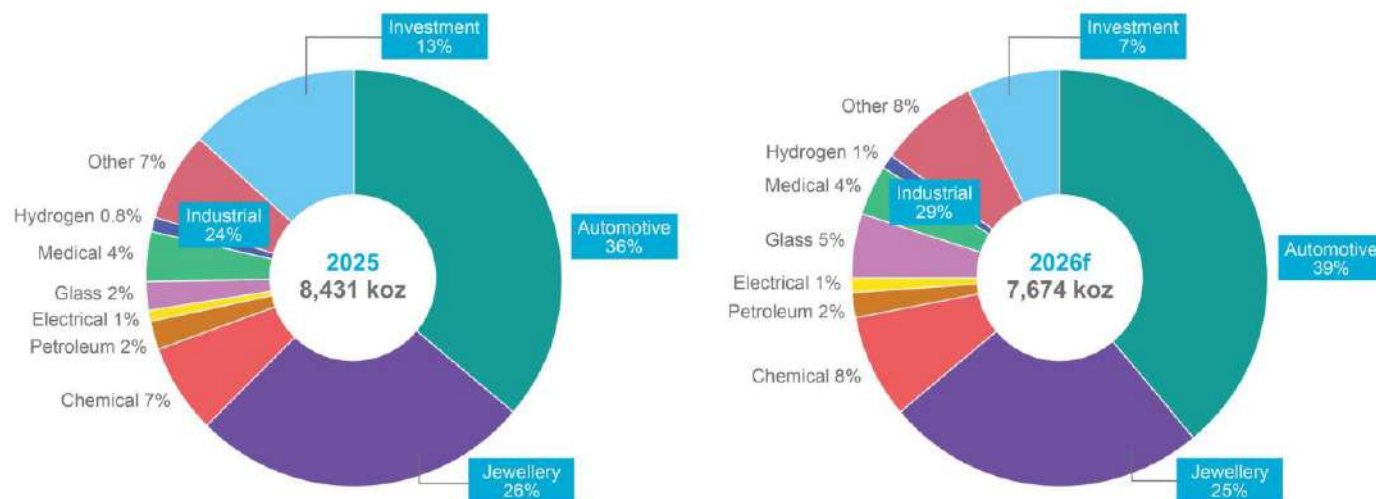
欧州のプラチナ宝飾品需要は今年も成長が続くだろう。第1四半期のトレンドとそれを支える根本的な要因を考えると、メタル価格が大きく上昇したとしても、2026年を通じたプラチナ宝飾品の需要は再び過去最高水準に達する可能性もある。この成長は他の貴金属に比べてプラチナ宝飾品のパフォーマンスが優れていることと、生活費の圧迫が続くとしても高価格品でも比較的需要がぶれにくいブライダル商品に強みがあるためだ。

日本市場は、2026年の円建てプラチナ価格が大きく上昇する我々の予測と第1四半期のパフォーマンスを合わせて考えると、プラチナ宝飾品需要の落ち込みは避けられない状況だ。それでも、5%の需要減は日本市場にとって相対的にはそれほど大きなマイナスではなく、富裕層の裁量的支出が底硬いことや、安定したブライダル市場が支えとなって消費者が実際にプラチナ宝飾品に費やす金額は今年も増えるだろう。

中国の2026年のプラチナ宝飾品製造は前年比で43%減って10.2トン、我々のデータベース上では最低水準にまで落ち込む予測だ。前回のレポートの予測を下方修正したのは、第1四半期の需要が予測を下回り、国内の宝飾品供給網が再びゴールド商品中心に戻っていることが理由。

インドの2026年のプラチナ宝飾品需要は5%増えて約8.1トンになる予測。メタル価格は下がらないが輸出は正常化する見込みで、米国、英国、UAE などが引き続き主要な輸出先になるだろう。インドの製造業者は UAE に製造拠点を設立して同国に直接出荷することになるため、インドの輸出量に影響することもあると考えられるが、インドは EU と貿易協定を結んで新しい市場の開拓に励んでおり、今後の輸出拡大につながる可能性がある。インドの国内市場では、新規、既存の小売業者がともに継続的に店舗の拡大を行っており、プラチナに対する消費者の認知度が高まっていることから国内製造需要が支えられるだろう。ゴールドとプラチナの宝飾品の価格差が広がっていることと、シルバー価格の変動が非常に大きいことから、小売店の在庫にプラチナ商品が増える可能性もある。メレダイヤを散りばめたデザインや軽量の商品の人気が高まっていること、ゴールドとプラチナの2色づかいの商品ではゴールドの比重が下がっていることなどを背景に、経済の先行きが不透明な中でも国内市場は底硬く推移するだろう。しかし、プラチナ価格が急騰すればゴールドに対するプレミアムが縮小し、ゴールド商品の代替としての魅力は失われてしまうため、そうなれば小売店のマージンが減って高額商品の販売促進は難しくなるだろう。

チャート 8：2025年と2026年（予測）の分野別需要



出典：メタルズフォーカスがWPICのために作成

工業需要

2026年の工業のプラチナ需要は前年比 9% 増えて 69.6トンになる予測。2025年に縮小したグラスファイバーの生産能力増強を主としたガラス産業のプラチナ需要の強い伸びが背景だ。電子材と化学産業のプラチナ需要も伸びる予測だが、これらの需要増加は石油産業の需要減に一部相殺される。医療と水素関連のプラチナ需要は堅調に増加するだろう。

ガラス

2026年のガラス産業のプラチナ需要は、2025年の低い水準(6.4 トン)から回復し、前年比83%増えて11.7トンになる予測。グラスファイバーを利用する分野が広がって新たな生産能力の増強が行われたことや、AIやプリント基板など高い付加価値がある分野が需要を牽引するだろう。これとは対照的に、液晶ディスプレイ(LCD) ガラスの分野では新たな生産能力増強の見込みが限られ需要は伸び悩むだろう。しかし、中国以外の地域の業界再編が進む中でも、グラスファイバーの需要は今後もプラチナ需要に構造的な面で貢献できるだろう。

石油

2026年の石油産業のプラチナ需要は前年比 28% 減って 4.1トンになるだろう。米国・イスラエルによるイランへの攻撃で生じた石油市場の深刻な混乱を反映して、前回の予想に対して下方修正を行った。ホルムズ海峡を通過する貿易の流れが正常に戻る時期を予測することは極めて困難な状況にあり、中東からの定期的な原油出荷が数週間以内に再開されたとしても、供給が紛争以前の水準に戻るまでにはかなりの時間を要するだろう。こういった状況から、物流制限が継続して操業の優先順位が変わって供給の逼迫をもたらし、定期メンテナンスなどは延期される可能性が高い。また北米でもマージンの上昇に伴って精製業者は処理量の増加を優先しており、メンテナンス作業は延期されるだろう。ガス・ツー・リキッド(GTL)工場での触媒交換も減る予測で、これも石油産業の2026年のプラチナ需要が減少する要因の一つだ。

我々の予測は、中東からの原油及びガスの定期的な供給が年半ばまでに再開されるだろうという国際エネルギー機関の最新予測に基づいているが、当然、それが実現しないリスクもある。ホルムズ海峡の封鎖が長期化した場合、世界の石油精製業界全体に深刻な影響が及び、広い範囲で混乱が生じる。そうなればプラチナ需要は現在の予測を下回る可能性がある。

化学

化学産業のプラチナ需要は今年後半に回復し、2026年全体の需要は6%増えて19.0トンになる予測。短期的には継続中の中東紛争が世界の石油化学産業に重荷になるだろうが、今年後半に稼働予定の新たな PXと PDH 生産施設がプラチナ触媒の需要の回復を後押しする見込みだ。今年はシリコンのプラチナ需要も緩やかに増加する予測だが、肥料生産のプラチナ需要は減少するだろう。イラン戦争の開始後に肥料の価格が急騰して農家の購買力が低下し、それが肥料生産工場の稼働率の低下につながっており、紛争による操業混乱と相まって触媒交換の需要も減るだろう。

石油産業同様に、物流の混乱が長期化すれば石油化学産業や肥料生産はさらに減産になる可能性が高く、そうなれば触媒の追加補充需要は予想を下回るだろう。

医療

2026年の医療のプラチナ需要は前年比4%増えて(+0.37トン) 10.3トンになる予測。高齢化、医療アクセスの改善、特に新興国での医療費の上昇などによってプラチナベースの医療機器やガン治療が増えることが背景にある。

電子材

2026年の電子材のプラチナ需要に関しては、これまでの予測を大きく上方修正して前年比 20%増の 3.7トンとした。ハードディスクドライブ(HDD) メーカーは SSDとの競争の脅威がある中で、増産のための設備投資に慎重な姿勢を保っているが、その状況でもプラチナの需要を支える要因は二つある。一つは既存の生産施設は顧客からの注文で年内すでにフル稼働生産が確定していること。二つ目は大容量のHAMRドライブの出荷が増加しており、1ユニットあたりのメタルの使用量が増えていることだ。

半導体メーカーはAI 技術の急速な拡大による需要に応えるために、最先端商品の生産能力増強に投資し続けており、プラチナ合金スパッタリングターゲットにはより厳格な技術仕様が求められている。プラチナ価格の上昇により、コスト効率の良い代替材料の模索が始まっているが、短期的に全面的な技術移行が実現する可能性は低い。したがってこの分野におけるプラチナは依然として中核的な材料であり、電子材分野のプラチナ需要の今後の成長を支えていくだろう。

水素: 定置型燃料電池とその他

2026年の世界の水素関連のプラチナ需要は前年比7%増えて 2.1トンになる予測。2025年は各国の脱炭素化目標の具体的な節目の年であったために水素燃料の普及が加速したが、2026年のペースは多少落ちるだろう。様々な政策の次の目標は2030年に設定されているものが多く、2026年の普及ペースが落ちるのは避けられない。しかし、イラン戦争が引き起こしたエネルギー危機で政治環境は大きく変わった。欧州の化石燃料輸入への依存と世界的サプライチェーンの脆弱性が浮き彫りとなり、エネルギーの安全保障とその回復に寄与できる政治の力が改めて高まった。これを受けてすでにEUの「Accelerate EU」計画やグリーン水素普及の障害となっている規制の見直しなどが進んでいる。

その他

2026年の工業のその他の分野のプラチナ需要は僅かに減るが前年とほぼ横並びになるだろう。ガソリン車の減産、スパークプラグの電極に使う代替メタルとしてイリジウムとルテニウムの割合が増えていることなどを背景に、スパークプラグのプラチナ需要の減少傾向は変わらない。しかし、センサー、特にプラチナを多く使うワイドバンドO2センサーの需要が予想を上回っており、スパークプラグのプラチナ需要減を補うことができるだろう。そのため工業のその他の分野のプラチナ需要は減るというよりは、再配分と言える面が強い。

投資需要

2025年に35.3トンだった世界のプラチナ投資需要は、50万オンス(約15.6トン)を少し超える16.1トンまで減る予測。減少の大きな原因は、通商拡大法232条調査の結果が明確になったことで、昨年はネットベースで流入だったCME承認保管庫の在庫が、今年は流出に変わるからだ。プラチナ価格の上昇を受けてETFも売却が増えて保有高が減るだろうが、インゴットとコインの需要は引き続き強いまま推移するだろう。

2026年の個人投資家のプラチナ需要は3割増えて(+4.1トン)、6年ぶりに多い16.6トンになるだろう。これは日本と米国をはじめとする主要市場でインゴットとコインの需要が大きく増える予測があるからだが、反対に中国の個人投資家需要は2025年とあまり変わらないだろう。

2026年は米国の市場が一部回復する予測で、個人投資家の需要は3年ぶりの高水準に達するだろう。売却は続くが、それを上回る購入が期待できる。年間を通じてゴールド、シルバー、プラチナの価格上昇が投資家の関心を惹き、貴金属全般でインゴットとコインの需要が続くだろう。

欧州の個人投資家のプラチナ需要は、良好なファンダメンタルズと1月以降の価格調整で、割安感を求める投資家の関心が改めて集まり低迷していた2025年に比べて回復するだろう。とはいえ、年初からのメタル価格が下がってもリースレートはまだ歴史的にも高いままで、地金業界はプラチナ投資商品の供給に対して慎重さを変えておらず、需要の回復は限定的になるだろう。

日本の投資家は、昨年見られたようにメタル価格の上昇局面で積極的に買う傾向に変わってきたことを考えると、第1四半期の需要傾向も合わせ、我々は今後も投資家の関心は高いまま推移すると予測している。したがって需要は6年ぶりに多い2.5トンの純増予測だ。

中国では、2026年残りの期間もプラチナ価格は前期よりも上昇する予測だが、2025年第2四半期のような極端に高い需要になることはなく、一年を通じた投資需要は前年比で横ばいになるだろう。第1四半期の小売販売を反映し、価格予測も需要予測も前回の予測から下方修正を行なった。

その他の地域の投資需要は、例年になく好調だった2025年に続いてさらに増加すると予測。インドとオーストラリアの需要は、今年残りの期間の増加ペースが鈍化するが、非常に好調だった第1四半期の実績が支えになるだろう。

2026年のプラチナETF保有高はネットベースで売越になるだろう。北米では通商拡大法232条に基づく調査と反ダンピング提訴に関する中間決定でプラチナに関する見通しが明らかになったことを受け、前年比67%減の4.7トンになるだろう。欧州ではエネルギーセクターへの投資資金を確保するためにプラチナETFが4.7トンほど売却されるだろう。

2026年の取引所在庫は2022年以来初めてネットベースで流出になるだろう。昨年はPGMに対する米国の関税懸念でディスロケーションや裁定取引の機会が増えて流入が増えたが、今後も不確実性が高い市場が続く、取引所在庫はネットベースでわずか0.59トンの増加にとどまる予測だ。

地上在庫

2026年のプラチナ供給不足は9.2トンで、2025年末時点ですでに低い水準にあった地上在庫はさらに54.3トンに減るだろう。これは世界のプラチナ需要のわずか3ヶ月分を賄えるだけの量となる。

WPICが定義する地上在庫とは、年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社の加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量をいう。

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表 2：供給、需要、地上在庫のまとめ ― 年間比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)													
SUPPLY													
Refined Production	6,145	6,130	6,125	6,074	4,990	6,294	5,523	5,606	5,777	5,557	5,551	-4%	0%
South Africa	4,365	4,385	4,470	4,374	3,298	4,678	3,915	3,957	4,133	3,957	4,005	-4%	1%
Zimbabwe	490	480	465	458	448	485	480	507	512	516	508	1%	-2%
North America	390	360	345	357	339	272	265	278	265	212	201	-20%	-5%
Russia	715	720	665	716	704	652	663	674	677	677	646	0%	-5%
Other	185	185	180	169	200	206	200	190	191	196	192	3%	-2%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+30	+30	+10	+2	-82	-94	+45	+14	+10	+4	+0	-57%	-100%
Total Mining Supply	6,075	6,160	6,135	6,076	4,908	6,200	5,568	5,620	5,787	5,561	5,551	-4%	0%
Recycling	1,860	1,915	1,955	2,157	2,041	2,107	1,811	1,515	1,536	1,679	1,826	9%	9%
Autocatalyst	1,210	1,325	1,430	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,163	1,241	1,365	7%	10%
Jewellery	625	560	505	476	422	422	372	331	298	356	373	20%	5%
Industrial	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	88	7%	8%
Total Supply	7,935	8,075	8,090	8,234	6,949	8,307	7,378	7,135	7,323	7,240	7,377	-1%	2%
DEMAND													
Automotive	3,360	3,300	3,115	2,689	2,200	2,466	2,766	3,204	3,108	3,031	2,959	-2%	-2%
Autocatalyst	3,225	3,160	2,970	2,689	2,200	2,466	2,766	3,204	3,108	3,031	2,959	-2%	-2%
Non-road	135	140	145	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	2,505	2,460	2,245	2,106	1,830	1,953	1,880	1,849	2,008	2,214	1,958	10%	-12%
Industrial	2,020	1,900	2,040	2,328	2,126	2,474	2,288	2,491	2,526	2,049	2,238	-19%	9%
Chemical	560	570	565	801	647	622	690	829	631	578	612	-8%	6%
Petroleum	220	120	235	219	109	169	193	160	159	182	132	14%	-28%
Electrical	195	210	205	144	130	135	106	89	93	99	119	6%	20%
Glass	320	260	275	236	435	713	436	491	692	206	377	-70%	83%
Medical	235	235	235	277	256	267	278	292	308	320	332	4%	4%
Hydrogen Stationary and Other	†	†	†	29	28	17	13	22	40	65	69	63%	7%
Other	490	505	525	621	523	552	572	609	603	600	598	0%	0%
Investment	535	275	15	1,271	1,592	-13	-504	388	713	1,136	519	59%	-54%
Change in Bars, Coins	460	215	280	285	603	340	273	314	205	402	533	96%	33%
China Bars ≥ 500g	†	†	†	16	23	27	90	134	162	165	185	2%	12%
Change in ETF Holdings	-10	105	-245	990	507	-241	-559	-74	296	185	-100	-38%	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	384	-100	> ±300%	N/A
Total Demand	8,430	7,935	7,415	8,394	7,748	6,880	6,430	7,933	8,355	8,431	7,674	1%	-9%
Balance	-485	140	675	-160	-799	1,427	949	-799	-1,033	-1,191	-297	N/A	N/A
Above Ground Stocks	1,740*	1,880	2,555	3,490**	2,691	4,118	5,067	4,268	3,235	2,044	1,747	-37%	-15%

出典：メタルズフォーカス（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

注：

1. 地上在庫：* 128.8トン 2012年12月31日時点（SFA（オックスフォード）社）。** 113.5トン 2018年12月31日時点（メタルズフォーカス社）。
2. † 一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表 3：需要と供給のまとめ－四半期ごとの比較

	Q1 2024	Q2 2024	Q3 2024	Q4 2024	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q1 2026	Q1'26/Q1'25 Growth %	Q1'26/Q4'25 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)											
SUPPLY											
Refined Production	1,228	1,541	1,459	1,549	1,101	1,446	1,414	1,597	1,320	20%	-17%
South Africa	796	1,127	1,049	1,161	711	1,044	1,031	1,171	1,002	41%	-14%
Zimbabwe	132	126	132	121	114	137	127	138	84	-26%	-39%
North America	73	59	59	74	49	58	50	55	50	1%	-10%
Russia	178	181	172	146	180	158	156	183	136	-24%	-26%
Other	48	48	48	47	47	49	51	49	48	2%	-1%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	+24	+35	-24	-25	-20	+21	-26	+29	+0	N/A	-100%
Total Mining Supply	1,252	1,576	1,435	1,524	1,081	1,467	1,388	1,626	1,320	22%	-19%
Recycling	379	395	372	390	388	429	414	448	416	7%	-7%
Autocatalyst	277	305	284	296	290	319	308	324	312	7%	-4%
Jewellery	84	72	68	74	78	90	86	102	84	7%	-18%
Industrial	17	19	20	20	19	20	21	21	21	8%	0%
Total Supply	1,630	1,971	1,807	1,914	1,469	1,896	1,802	2,073	1,736	18%	-16%
DEMAND											
Automotive	818	787	735	768	766	777	726	762	720	-6%	-6%
Autocatalyst	818	787	735	768	766	777	726	762	720	-6%	-6%
Non-road	†	†	†	†	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	484	507	494	523	532	671	492	519	461	-13%	-11%
Industrial	673	689	584	580	363	545	563	578	513	41%	-11%
Chemical	173	156	152	150	121	147	150	160	116	-4%	-27%
Petroleum	40	40	40	40	45	45	45	45	33	-28%	-28%
Electrical	22	23	24	24	22	24	26	27	28	25%	4%
Glass	210	230	131	122	-71	89	98	89	94	N/A	5%
Medical	74	77	77	80	78	80	80	81	78	0%	-5%
Hydrogen Stationary and Other	7	8	11	13	17	11	15	22	18	9%	-16%
Other	148	154	149	152	151	149	147	153	146	-3%	-5%
Investment	113	460	-223	363	465	-45	305	412	-225	N/A	N/A
Change in Bars, Coins	60	15	72	57	74	128	82	118	105	42%	-11%
China Bars ≥ 500g	53	41	30	38	35	47	34	49	44	25%	-10%
Change in ETF Holdings	11	444	-300	142	-6	97	-169	263	-255	N/A	N/A
Change in Stocks Held by Exchanges	-11	-40	-25	126	361	-317	358	-18	-119	N/A	N/A
Total Demand	2,088	2,443	1,590	2,234	2,127	1,949	2,085	2,271	1,468	-31%	-35%
Balance	-458	-472	216	-320	-658	-53	-283	-198	268	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス（2024年から2026年予測）

注：

1. † 一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表 4 : 需要と供給のまとめ一半年ごとの比較

	H2 2023	H1 2024	H2 2024	H1 2025	H2 2025	H2'25/H2'24 Growth %	H2'25/H1'25 Growth %
Platinum Supply-demand Balance (koz)							
SUPPLY							
Refined Production	2,929	2,769	3,009	2,547	3,011	0%	18%
South Africa	2,127	1,923	2,210	1,754	2,202	0%	26%
Zimbabwe	265	258	254	251	265	4%	5%
North America	136	133	132	107	105	-20%	-1%
Russia	304	359	318	338	339	7%	0%
Other	96	96	95	97	99	5%	3%
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	-25	+59	-49	+1	+3	N/A	129%
Total Mining Supply	2,904	2,828	2,959	2,548	3,014	2%	18%
Recycling	724	774	762	817	862	13%	6%
Autocatalyst	529	582	580	609	632	9%	4%
Jewellery	160	156	142	168	188	33%	12%
Industrial	36	36	40	39	42	5%	7%
Total Supply	3,628	3,602	3,721	3,364	3,876	4%	15%
DEMAND							
Automotive	1,584	1,605	1,503	1,543	1,488	-1%	-4%
Autocatalyst	1,584	1,605	1,503	1,543	1,488	-1%	-4%
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A
Jewellery	916	991	1,017	1,204	1,011	-1%	-16%
Industrial	1,053	1,362	1,164	909	1,141	-2%	26%
Chemical	249	328	302	268	310	2%	15%
Petroleum	77	80	80	91	91	14%	0%
Electrical	44	45	48	46	53	10%	15%
Glass	216	440	252	19	188	-26%	> ± 300%
Medical	144	151	157	158	162	3%	3%
Hydrogen Stationary and Other	15	16	24	28	37	53%	33%
Other	307	302	301	300	301	0%	0%
Investment	-30	573	140	420	717	> ± 300%	71%
Change in Bars, Coins	144	75	130	202	200	54%	-1%
China Bars ≥ 500g	83	94	68	82	83	23%	1%
Change in ETF Holdings	-270	455	-159	91	94	N/A	3%
Change in Stocks Held by Exchanges	12	-51	101	44	340	236%	> ± 300%
Total Demand	3,523	4,531	3,825	4,075	4,356	14%	7%
Balance	105	-929	-103	-711	-481	N/A	N/A

出典：メタルズフォーカス社（2023年から2025年予測）

注：

1. †一般道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表5：地域毎の需要 ― 各年と四半期比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2026/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q1 2026
Platinum Gross Demand (koz)																		
Automotive	3,350	3,290	3,115	2,689	2,200	2,466	2,766	3,204	3,108	3,031	2,959	-2%	-2%	766	777	726	762	720
North America	410	390	390	311	268	340	411	447	487	457								
Western Europe	1,630	1,545	1,340	1,355	979	923	972	1,165	1,029	943								
Japan	450	435	425	285	223	248	247	291	287	291								
China	195	230	220	162	254	362	429	537	509	537								
India	170	175	200	††	††	††	††	††	††	††								
Rest of the World	495	515	540	576	476	594	707	763	797	803								
Jewellery	2,505	2,460	2,245	2,106	1,830	1,953	1,880	1,849	2,008	2,214	1,958	10%	-12%	532	671	492	519	461
North America	265	280	280	341	277	409	448	438	445	470								
Western Europe	240	250	255	237	196	260	301	319	343	377								
Japan	335	340	345	372	316	298	333	338	376	383								
China	1,450	1,340	1,095	871	832	703	484	408	412	578								
India	145	175	195	109	59	123	171	203	266	247								
Rest of the World	70	75	75	176	151	159	144	144	166	159								
Chemical	560	570	565	801	647	622	690	829	631	578	612	-8%	6%	121	147	150	160	116
North America	50	50	50	98	103	109	110	121	97	110								
Western Europe	110	115	105	124	111	115	106	113	101	104								
Japan	15	15	15	66	62	65	66	53	58	59								
China	225	220	215	297	214	221	225	361	169	112								
Rest of the World	160	170	180	216	157	111	183	181	206	192								
Petroleum	220	120	235	219	109	169	193	160	159	182	132	14%	-28%	45	45	45	45	33
North America	90	55	55	30	5	32	44	44	56	46								
Western Europe	10	5	20	14	11	18	30	22	21	6								
Japan	0	-20	5	7	6	12	7	6	6	6								
China	80	45	10	66	35	39	26	24	17	14								
Rest of the World	40	35	145	103	52	67	86	64	60	110								
Electrical	195	210	205	144	130	135	106	89	93	99	119	6%	20%	22	24	26	27	28
North America	10	15	15	38	35	35	28	24	25	26								
Western Europe	10	10	10	27	23	25	20	16	17	18								
Japan	15	15	15	20	16	17	14	12	12	13								
China	80	90	85	28	31	31	23	19	20	20								
Rest of the World	80	80	80	31	25	26	22	18	19	21								
Glass	320	260	275	236	435	713	436	491	692	206	377	-70%	83%	-71	89	98	89	94
North America	10	5	5	-67	-25	4	15	33	18	10								
Western Europe	5	5	20	59	39	6	26	-90	6	1								
Japan	-10	-10	0	-37	-63	7	-150	5	-9	-183								
China	225	165	120	173	333	731	453	541	751	335								
Rest of the World	90	95	130	108	150	-36	92	1	-73	43								
Medical	235	235	235	277	256	267	278	292	308	320	332	4%	4%	78	80	80	81	78
Other industrial	490	505	525	621	523	552	572	609	603	600	598	0%	0%	151	149	147	153	146
Hydrogen Stationary & Other	†	†	†	29	28	17	13	22	40	65	69	63%	7%	17	11	15	22	18
Bar & Coin Investment	460	215	280	285	603	340	273	314	205	402	533	96%	33%	74	128	82	118	105
North America				158	237	259	261	172	119	94								
Western Europe				55	83	65	49	23	33	33								
Japan				46	240	-26	-114	54	-18	2								
China				15	23	26	38	52	64	239								
Rest of the World				11	20	17	39	12	6	33								
China Bars ≥ 500g				16	23	27	90	134	162	165	185	2%	12%	35	47	34	49	44
ETF Investment	-10	105	-245	990	507	-241	-559	-74	296	185	-100	-38%	N/A	-6	97	-169	263	-255
North America				125	524	-6	-102	-61	165	460								
Western Europe				508	237	56	-314	-99	163	-221								
Japan				-13	58	-23	-28	12	-6	48								
Rest of the World				370	-312	-268	-116	74	-26	-102								
Change in Stocks Held by Exchanges	85	-45	-20	-20	458	-139	-307	14	50	384	-100	≥±300%	N/A	361	-317	358	-18	-119
Investment	535	275	15	1,271	1,592	-13	-504	388	713	1,136	519	59%	-54%	465	-45	305	412	-225
Total Demand	8,410	7,925	7,415	8,394	7,748	6,880	6,430	7,933	8,355	8,431	7,674	1%	-9%	2,127	1,949	2,085	2,271	1,468

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

注：

1. † 水素と定置型燃料電池の需要は2019年以前はその他の工業需要に含まれる。
2. †† インドの自動車需要はその他の地域に含まれる。
3. メタルズフォーカス社、SFA（オックスフォード）社のデータは必ずしも同じ比較対象ベースを使っているわけではない。
4. 2019年以前のSFA（オックスフォード）社のデータはそれぞれ単独で5koz単位で四捨五入。

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表6：地域毎のリサイクル供給 ― 各年と四半期比較

	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q1 2025	Q2 2025	Q3 2025	Q4 2025	Q1 2026
Platinum recycling supply (koz)																		
Automotive	1,210	1,325	1,420	1,612	1,553	1,619	1,370	1,114	1,163	1,241	1,365	7%	10%	290	319	308	324	312
North America				522	486	490	458	311	327	359								
Western Europe				792	823	842	687	580	585	615								
Japan				137	92	114	81	73	84	77								
China				35	68	77	59	53	72	83								
Rest of the World				126	83	95	86	96	95	108								
Jewellery	625	560	505	476	422	422	372	331	298	356	373	20%	5%	78	90	86	102	84
North America				3	3	3	3	3	3	3								
Western Europe				4	4	3	4	4	4	4								
Japan				187	162	160	165	136	107	111								
China				276	248	250	195	183	179	233								
Rest of the World				5	5	5	6	5	5	5								
Industrial	25	30	30	69	66	67	69	71	76	81	88	7%	8%	19	20	21	21	21
North America				15	12	12	13	12	15	18								
Western Europe				11	10	11	11	13	15	17								
Japan				34	34	34	34	34	34	33								
China				7	7	8	9	9	10	11								
Rest of the World				2	2	2	2	2	2	2								

出典：メタルズフォーカス社（2019年から2026年予測）、SFA（オックスフォード）社（2016年から2018年）

PLATINUM QUARTERLY Q1 2026

表 7：供給、需要、地上在庫のまとめ ― 年間比較 （5 ページ表 1 をトン表示に換算したもの）

	2022	2023	2024	2025	2026f	2025/2024 Growth %	2026f/2025 Growth %	Q4 2025	Q1 2026
Platinum Supply-demand Balance (tonnes)									
SUPPLY									
Refined Production	172	174	180	173	173	-4%	0%	50	41
South Africa	122	123	129	123	125	-4%	1%	36	31
Zimbabwe	15	16	16	16	16	1%	-2%	4	3
North America	8	9	8	7	6	-20%	-5%	2	2
Russia	21	21	21	21	20	0%	-5%	6	4
Other	6	6	6	6	6	3%	-2%	2	2
Increase (-)/Decrease (+) in Producer Inventory	1	0	0	0	0	-57%	-100%	+1	+0
Total Mining Supply	173	175	180	173	173	-4%	0%	51	41
Recycling	56	47	48	52	57	9%	9%	14	13
Autocatalyst	43	35	36	39	42	7%	10%	10	10
Jewellery	12	10	9	11	12	20%	5%	3	3
Industrial	2	2	2	3	3	7%	8%	1	1
Total Supply	229	222	228	225	229	-1%	2%	64	54
DEMAND									
Automotive	86	100	97	94	92	-2%	-2%	24	22
Autocatalyst	86	100	97	94	92	-2%	-2%	24	22
Non-road	†	†	†	†	†	N/A	N/A	†	†
Jewellery	58	58	62	69	61	10%	-12%	16	14
Industrial	71	77	79	64	70	-19%	9%	18	16
Chemical	21	26	20	18	19	-8%	6%	5	4
Petroleum	6	5	5	6	4	14%	-28%	1	1
Electrical	3	3	3	3	4	6%	20%	1	1
Glass	14	15	22	6	12	-70%	83%	3	3
Medical	9	9	10	10	10	4%	4%	3	2
Hydrogen Stationary and Other	0	1	1	2	2	63%	7%	1	1
Other	18	19	19	19	19	0%	0%	5	5
Investment	-16	12	22	35	16	59%	-54%	13	-7
Change in Bars, Coins	8	10	6	12	17	96%	33%	4	3
China Bars ≥ 500g	3	4	5	5	6	2%	12%	2	1
Change in ETF Holdings	-17	-2	9	6	-3	-38%	N/A	8	-8
Change in Stocks Held by Exchanges	-10	0	2	12	-3	> ± 300%	N/A	-1	-4
Total Demand	200	247	260	262	239	1%	-9%	71	46
Balance	30	-25	-32	-37	-9	N/A	N/A	-6	8
Above Ground Stocks	158**	133	101	64	54	-37%	-15%		

出典: メタルズフォーカス（2022年から2026年予測）

注:

1. 地上在庫：***113.5トン 2018年12月31日時点（メタルズフォーカス）
2. †道路を通行する車両以外の自動車需要は自動車触媒需要に含まれる。
3. 予測は全て最新データに基づくが、新たな四半期レポートのデータに応じて修正されることがある。
4. WPIC は2013年、および2014年第1四半期および同年第2四半期の予測は発表していない。しかし2014年第3四半期から2022年第2四半期のデータは過去のプラチナ四半期レポートに掲載されており、それらについてはWPICウェブサイト参照（無料）。
5. 2022年第3四半期以降の四半期予測と2022年上半年期以降の6ヶ月予測は、23ページの表3と24ページの表4にそれぞれ含まれている(供給、需要、地上在庫)。
6. 26ページの表6の地域毎のリサイクル供給の詳細データは2019年からのものによる。

用語集

Above ground stocks 地上在庫

年末の時点での、上場投資信託に依らず、取引所保有ではない、鉱山生産者・精錬所・宝飾製造会社のしかかり・加工在庫ではなく、消費者が所有していないプラチナの総量。通常は供給で賄えない需要を容易に補充できる、あるいは過剰な供給分を即座に流通させられる、保管庫にある未公表のメタルをいう。

ADH アルカン脱水素化

飽和炭化水素であるアルカンから触媒などによって不飽和炭化水素であるアルケンを生成する化学反応で、ブタン脱水素(BDH)とプロパン脱水素(PDH)がある。

BDH ブタン脱水素

触媒を使ってイソブタンからイソブチレンを生成する化学反応。

BEV バッテリー電気自動車

充電できるバッテリーを利用する電気モーターを推進力として利用する電気自動車。

Bharat バラート（排出基準）

インド政府が、エンジン車及び点火式エンジンから排出される大気汚染物質を軽減・規制するために導入した排ガス基準 (BSES)。

Bharat Stage VI standard (BS-V, BS-VI) バラートステージ V, VII 基準

バラートステージ VI 基準は「Euro 6」に準じ、2018年から2020年にかけて導入された。

Catalysed vehicle 触媒装置付き自動車

触媒装置付き自動車とは排気システムに触媒コンバーターを備えた自動車で、一酸化炭素(CO)、窒素酸化物(NO_x)、炭化水素(HC)などの有害物質を、触媒装置の中で二酸化炭素(CO₂)、窒素(N₂)、水蒸気(H₂O)など、より害の少ないカスに転換して排出する。化石燃料を燃焼する純粋なエンジン車及びハイブリッド車の両方が触媒装置を搭載する。

China Bars ≥ 500g 中国の500グラム以上のインゴット

中国で売られる500グラム以上の大型のインゴットのネットベースの需要で、実需ユーザーが購入したインゴットは含まない。

China Vehicle Emission Standards 中国の排ガス基準

中国の排ガス基準は国レベルでは生態環境部が、地方レベルでは環境保護局の管轄となる。中国の多くの都市や省では新しい基準を先行して導入することが多い。

China 6 「国 6」（排出基準）

2016年12月に中国政府が全国の普通乗用車に対して定めた、それぞれ2020年7月（「国 6a」）と2023年7月（「国 6b」）から適応される排出基準。排気管から排出される排気ガスと燃料蒸発ガスの基準については「Euro 6」と米「Tier 2」基準に準じている。「国 6b」基準では、EU RDE 規制（「Euro 6d TEMP」）を基本に、改良と修正を加えた路上走行試験を義務化した。

China VI 「国 VI」（排出基準）

2023年7月よりディーゼルで走る大型輸送車に適用される排出基準。

Compounds (Platinum based) プラチナベースのコンパウンド

プラチナと他の物質を合わせ、特定の化学反応を促進するため、触媒、メッキ、金属3Dプリンティング、その他の製造過程に使われる。

Diesel oxidation catalyst (DOC) ディーゼル酸化触媒

ディーゼル燃料の不完全燃焼による有害な一酸化炭素や炭化水素を、無害な二酸化炭素と水に変換する触媒。

Diesel particulate filter (DPF) and catalysed diesel particulate filter (CDPF) ディーゼル微粒子フィルター、触媒被覆DPF

DPF はディーゼル排気ガス中のススを物理的に捕える装置で、CDPF は ススの酸化と除去を促進するために PGM 触媒をコーティングした装置。これらはしばしば同義語として用いられる。

Electrolysis of water 水の電解

水の電解装置は、電流を利用して水の分子を水素と酸素に分解する装置。電解を行う最小単位のデバイスであるセル、それを複数重ねたスタック、これらと周辺の機器を合わせたシステムからなる。

Emissions Legislation 排気ガス規制

一酸化炭素(CO)、粒子状物質(PM)、炭化水素、窒素酸化物(NO_x)など、車が排出する有害ガス処理を行う浄化触媒システムの搭載を義務化した規制で、地域や国ごとに異なる基準があり、最小排出目標値や適応期限が異なる。

EPA 環境保護庁

Environmental 米連邦政府の機関として米国の自動車排出ガス規制を管轄する。

EREV レンジエクステンダー式電気自動車

ガソリンエンジンを搭載するバッテリー電気自動車だが、エンジンはプラグインハイブリッド車のように車輪の駆動動力ではなく、航続距離を伸ばすためにバッテリーの充電用発電機として機能する。

ETF 上場投資信託

指数やコモディティ、資産バスケットに連動するように運用される投資信託の一種。プラチナ ETF は現物プラチナ 上昇している取引所が承認した保管庫にある (LPPM グッドデリバリーバー) が原資となっている。

Euro 6 emission standards Euro 6 排ガス規制

2014年から2015年にかけてEU圏で導入された普通乗用車が対象の排ガス規制。基準値は変わらないものの、現在は測定法がより厳格になった Euro 6 a、b、c、d、Euro 6d-Temp が使われている。CO₂ については試験室ベースの WLTP が、NO_x についてはRDEが導入されている。

Euro VI emission standards Euro VI 排ガス規制

2013年から2014年にかけてEU圏で導入された大型輸送車が対象の排ガス規制。のちに同様の基準値が他国に採用された。

Euro 7 emission standards Euro 7 排ガス規制

Euro 7 排ガス規制は、普通乗用車と小型商用車の排気ガスについては現行の Euro 6 基準値のままだが、粒子状物質の基準についてはより厳格化され、さらに走行距離と耐用年数においても強化される。2027年初頭から段階的に導入される予定。

Euro VII emission standards Euro VII 排ガス規制

Euro VII 排ガス規制は大型輸送車に対して、これまで規制されてこなかった亜酸化窒素(N₂O)を含む各種の有害物質についてより厳格な基準値を定めるとともに、耐用年数についても強化する。2027年初頭から段階的に導入される見込み。

FCM 燃料消費モニタリング

車両の使用期間中の実際の燃料消費を記録することで、「Euro 6d」排ガス規制では2020年1月1日以降に生産される全ての車、および2021年1月1日の全ての新規登録車に課される。

FCEV 燃料電池自動車

バッテリーの代わりに、水素を燃料とするプラチナを含む燃料電池で発電することで走行する電気自動車。

Forward price 渡価格

将来のある時点のコモディティの価格で、通常はスポット価格にリスクフリーの金利及び保有コストを含める。

GTL ガス・ツー・リキッド

天然ガスからガソリンやディーゼル燃料などの液体燃料を合成する技術。

HDD ハードディスクドラ

磁気ディスクを使ってデジタルデータを記憶させる装置。

HDV 重量車

米国の排ガス規制における車両区分。日本では大型トラックやバスに相当。

HEV ハイブリッド電気

ハイブリッド車に搭載されているエンジンは車輪を駆動するだけでなく、発電してバッテリーの充電に使うことも、回生ブレーキによってバッテリーに電力を蓄えることもできる。電気のための航続距離は通常数キロメートルにとどまる。

Hydrogen Production Methods 水素の生産方法

近年は異なる方法で生産された水素を色分けして区別するようになった。しかし、まだ国際的に承認された基準はなく、あくまでも参考呼称。以下の色分けはさまざまな生産方法を含めた一般的なもの。

ホワイต์水素 – 天然水素あるいは産業製造過程の副産物として生じる水素
ブラック・ブラウン水素 – 石炭(ブラック)、褐炭(ブラウン)を原料にする水素
グレー水素 – 化石燃料の改質による水素
ターコイズ水素 – メタンの熱分解による水素
ブルー水素 – 化石燃料の改質と二酸化炭素回収を組み合わせる生産される水素
グリーン水素 – 再生可能エネルギーを使う水電解による水素
ピンク水素 – 原子力発電を使って生産される水素

ICE 内燃機関

燃料を燃焼させることで機械の動力源とする熱機関

IoT モノのインターネット

あらゆるモノがインターネットを通じて相互に通信する仕組み。

ISC サービス稼働適合性

自動車の排ガス基準に対する適合を実際の走行条件下でも確認する評価。

Jewellery alloys 宝飾品の合金

プラチナ宝飾品の純度は常に千分率で表される。例えば最も一般的なpt950とは、金属の95%が純プラチナで、残りはコバルトや銅など他の金属が使われていることを意味する。プラチナ宝飾品としての認定や刻印をするための純度の基準は通常各市場で決められている。

Jewellery demand 宝飾品の需要

未加工のプラチナが半製品あるいは完成品の宝飾品に初めて転換された段階の需要。

Koz トロイオンス

1 kozは1000トロイオンス、1トロイオンスは約31.1キログラム。

LCD 液晶ディスプレイ

2枚のガラスあるいはプラスチック層の間に液晶を挟み込み、電界によって光の透過を制御する平面のパネルディスプレイ。

LDV 軽量車両

米国の排ガス規制における車両区分。日本では普通乗用車と小型商用車にほぼ相当する。

NEDC New European Driving Cycle

国連欧州経済委員会(UNECE)が管理する国連車両規則101号に定められ、欧州で乗用車の排出ガス量や燃料評価に用いるテストサイクルで、随時更新され、より厳格なWLTPに置き換えられた。

Net demand ネットの需要

リサイクルで回収される供給を差し引きしたネットの新たな需要。

Non-road engines 非道路移動機械用エンジン

建設現場や農場、鉱山の採掘現場の車両に使われるディーゼルエンジンでエンジンの構造や排ガス制御技術は、一般道を走行するディーゼル大型輸送車と似ている。

Ounce conversion オンスとトン・キロ

1 トンは1000キログラム、32.151 トロイオンス。

Oz トロイオンス

貴金属に通常使われる重量の単位で1トロイオンスは31.103グラム。

PDH プロパン脱水素

プロパンからプロピレンを製造するプロセス。

PEM Electrolyser Technology 固体高分子型水電解技術

水電解技術の主な4つの技術の一つで、酸素極(アノード)の電極には酸化イリジウム、水素極(カソード)の電極にはプラチナが使われる。輸送層にはプラチナがコーティングされた焼結多孔質チタン、双極板にもプラチナが使われる。

PGMs 白金族金

ルテニウム(Ru)、ロジウム(Rh)、パラジウム(Pd)、オスミウム(Os)、イリジウム(Ir)、プラチナ(Pt)の6つの元素の総称。[訳者加筆]

PHEV プラグインハイブリッド電気自動車

外部電源に接続して充電できるバッテリーと、車輪を直接駆動あるいはバッテリーも充電できるエンジンを搭載する。電気のための航続距離は通常30キロから80キロ。

PMR 貴金属精錬所

鉱石やスクラップから貴金属を取り出して純度を高める施設[訳者加筆]。

Pricing benchmarks 指標価格

流動性の高い市場で取引されるコモディティの価格で、買い手と売り手の参考基準となる。プラチナの場合は、通常、ロンドン金属取引所(LME)が公表する、オークション方式によるLBMAプラチナ価格。

Producer inventory 生産者在庫

需給バランスにおいて、生産者在庫の変化は精錬メタル生産と販売したメタルの差となる。

PX パラキシレン

原油から得られる石油ナフサを、プラチナ触媒を使って転化させて得られる化学物質。パラキシレンはポリエステル製造に利用するテレフタル酸の生産に用いられる。

Refined production 精錬生産

精錬所では、最低でも純度 99.95% のプラチナのインゴット、スポンジ、粒子を生産する。

RDE 実走行排出試験

走行中の車両が排出する NO_x などの有害物質を測定し、試験室での検査に加えて実施される試験。2017年9月から新型車に対して導入され、2019年9月からは全ての登録車に対しても課されている。

Secondary supply リサイクル供給

未使用の在庫も含むプラチナを使った製品を回収して取り出されたプラチナは供給の一部として扱われるが、製造過程で発生する生産スクラップは含まない。自動車触媒及び宝飾品のリサイクルはスクラップが出た国での統計となり、実際にプラチナの精錬が行われる国とは異なる場合がある。

Selective catalytic reduction (SCR) 選択式還元触媒

ディーゼルエンジンの排気流に液体還元剤(尿素)を噴射する排気ガス制御技術で、使用する尿素は AdBlue という商品名で知られる。通常 SCR ユニットと、プラチナを含むディーゼル酸化触媒(DOC)を汎用する。

SGE 上海黄金交易所

2002年設立の中国唯一の公式貴金属取引所。[訳者加筆]

SSD ソリッドステートドライブ

メモリチップを用いるデータ記憶装置でフラッシュメモリを利用する。

Stage 4 regulations ステージ4 規制

非道路移動機械(Non-road mobile machinery: NRMM) はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。[米国のEPAが定める排ガス規制(訳者加筆)]

Three-way catalyst 三元触媒

ガソリン車において炭化水素、一酸化炭素、窒素酸化物を除去するために用いられる。パラジウムが主体の触媒だが、代替として一部プラチナが使われるようになっており、またロジウムも使われる。

Tri-metallic catalyst トリメタル触媒

自動車の排ガス制御において、3種類の白金族金属であるプラチナ(Pt)、パラジウム(Pd)、ロジウム(Rh)を組み合わせた浄化触媒装置。

US Vehicle Emission Standards 米国の排ガス基準

米国の自動車およびエンジンに対する排ガス規制は「Clean Air Act (CAA)」に基づき、環境保護庁(EPA)の管轄下にある。カリフォルニア州は独自の排ガス規制を導入する権利を有し、同州のEPA下にあるカリフォルニア州大気資源局(CARB)がエンジン及び車両の排ガス規制を策定する。車両は毎年「bin」と呼ばれる異なる排出クラスに認証され、フリート全体の平均排出量が規制の対象となる。

Tier 3 Tier3 規制

米EPAによる排ガス規制で2025年までの共通目標を定めた。2017年～2025年式車を対象とし、カリフォルニア州基準と合致[訳者加筆]。

Tier 4 stage Tier4 ステージ規制

EUにおける非道路移動機械の排ガス規制はステージ1からステージ5まで段階的に厳格になる規定が設けられている。2018年5月に見直され、2020年、2021年に向けた期限が設定された。業界団体による施行延期要請についてはまだ未定。

Washcoat ウォッシュコート層

自動車触媒装置のブロックあるいは部材内部に、セラミックなどの不活性基材の上にコーティングされる層でプラチナなどの活性触媒を含む。

WIP しかかり在庫あるいは加工在庫

生産者において製錬及び精錬過程にある段階の未完成の製品在庫 [訳者加筆]

WLTP 乗用車などの国際調和燃費・排出ガス試験方法

有害物質の排出量及び燃料消費量を測定するための試験室検査で、EUでは2017年9月より新型車に、2018年9月よりNEDCに代わる方法として導入された。日本では2016年10月より導入 [訳者加筆]

WPIC ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシル

・

免責条項: 当出版物は一般的なもので、唯一の目的は知識を提供することである。当出版物の発行者、ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルは、世界の主要なプラチナ生産会社によってプラチナ投資需要発展のために設立されたものであるその使命は、それによって行動を起こすことができるような見識と投資家向けの商品開発を通じて現物プラチナに対する投資需要を喚起すること、プラチナ投資家の判断材料となりうる信頼性の高い情報を提供すること、そして金融機関と市場参加者らと協力して投資家が必要とする商品や情報ルートを提供することである。

当出版物に掲載された2019年からメタルズフォーカス社によるリサーチは© Metals Focus Copyrightが著作権を有するものである。当出版物に掲載されたデータの全ての著作権およびその他の知的財産権はメタルズフォーカス社に属し、発行者への第三者コンテンツ提供者である同社のみがその情報及びデータの中の知的財産権の登録をする権利がある。メタルズフォーカス社の分析、データ、その他の関連情報は掲載時点でのメタルズフォーカス社の判断を表したものであり、予告なく変更されることがある。当該データ及び解説のいかなる部分もメタルズフォーカス社の書面による承諾なしに資本市場（資金調達）のために使用することはできない。

当出版物に掲載された2019年以前のSFA社によるリサーチは© SFA Copyrightが著作権を有するものである。

当出版物は有価証券の売買を提案または勧誘するものではなく、またそのような提案または勧誘とみなされるべきものでもない。当出版物によって、出版者およびコンテンツ提供者は、それが明示されているか示唆されているかにかかわらず、有価証券あるいは商品取引の注文を発注、手配、助言、仲介、奨励する意図はない。当出版物は税務、法務、投資に関する助言を提案する意図はなく、当出版物のいかなる部分も投資商品及び有価証券の購入及び売却、投資戦略あるいは取引を推薦するものとみなされるべきでない。発行者、コンテンツ提供者はブローカー・ディーラーでも、また2000年金融サービス市場法、Senior Managers and Certifications Regime及び金融行動監視機構を含むアメリカ合衆国及びイギリス連邦の法律に登録された投資アドバイザーでもなく、及びそのようなものと称していることもない。

当出版物は特定の投資家を対象とした、あるいは特定の投資家のための専有的な投資アドバイスではなく、またそのようなものとみなされるべきではない。どのような投資も専門の投資アドバイザーに助言を求めた上でなされるべきである。いかなる投資、投資戦略、あるいは関連した取引もそれが適切であるかどうかの判断は個人の投資目的、経済的環境、及びリスク許容度に基づいて個々人の責任でなされるべきである。具体的なビジネス、法務、税務上の状況に関してはビジネス、法務、税務及び会計アドバイザーに助言を求めるべきである。

当出版物は信頼できる情報に基づいているが、出版者とコンテンツ提供者が、情報の正確性及び完全性を保証するものではない。当出版物は業界の継続的な成長予測に関する供述を含む、将来の予測に言及している。出版者とメタルズフォーカス社は当出版物に含まれる、過去の情報以外の全ての予測は、実際の結果に影響を与えるリスクと不確定要素を伴うことを認識しているが、出版者とコンテンツ提供者は、当出版物の情報に起因して生じるいかなる損失あるいは損害に関して、一切の責任を負わないものとする。

ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルのロゴ、商標、及びトレードマークは全てワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルに帰属する。当出版物に掲載されているその他の商標はそれぞれの商標登録者に帰属する。発行者は明記されていない限り商標登録者とは一切提携、連結、関連しておらず、また明記されていない限り商標登録者から支援や承認を受けていることはなく、また商標登録者によって設立されたものではない。発行者によって非当事者商標に対するいかなる権利の請求も行われたい。

© 2026 World Platinum Investment Council Limited. 禁無断転載。ワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの名称、ロゴ、及び略称WPICはワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルの登録商標である。当出版物のいかなる部分もワールド・プラチナ・インベストメント・カウンシルおよび著者の許可なくして、いかなる方法によっても複製および配布されてはならない。